別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｺﾏｻﾞﾜｶﾞｸｴﾝ 学校法人　駒澤学園	
フリガナ 大学の名称	ｺﾏｻﾞﾜｼｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 駒沢女子大学　(Komazawa Women's University)	
大学本部の位置	東京都稲城市坂浜238番地	
大学の目的	本学は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、道元禅師の禅を建学の精神とする伝統をふまえ、国際化・情報化の進展、女性の社会参加の拡大など、急速な社会構造の変化にのぞみ、十分に自己を実現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成することを目的とする。	
新設学部等の目的	心理学の基礎的知識、研究方法の習得を通して、情報を収集し分析する力、他者とかかわり協働していく力、課題に対して適切な方法で取り組む主体的な力を有する女性を養成する。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	人文学部 [Faculty of Humanity and Science] 心理学科 [Department of Psychology]	4	90	—	360	学士(心理学)	平成25年4月 第1年次	東京都稲城市坂浜238番地
	計		90	—	360			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人文学部 **人間関係学科〔定員減〕　（△ 90）**

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	人文学部 心理学科	112　科目	103　科目	10　科目	225　科目	124　単位

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			人	人	人	人	人	人	人
新設分	人文学部　心理学科		6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	57 (57)
	計		6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	57 (57)
既設分	人文学部　日本文化学科		7 (7)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	53 (53)
	国際文化学科		11 (11)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	55 (55)
	人間関係学科		5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	58 (58)
	空間造形学科		3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	61 (61)
	映像コミュニケーション学科		3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	57 (57)
	人間健康学部　健康栄養学科		9 (9)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	17 (17)	6 (6)	59 (59)
	計		38 (38)	15 (15)	9 (9)	1 (1)	63 (63)	6 (6)	343 (343)
	合　計		44 (44)	19 (19)	11 (11)	1 (1)	75 (75)	6 (6)	132 (132)

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	32 (32)	7 (7)	39 (39)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	33 (33)	7 (7)	40 (40)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	0 ㎡	113,392 ㎡	0 ㎡	113,392 ㎡	校舎敷地の一部及び運動場用地は、駒沢女子短期大学と共用。
運動場用地	0 ㎡	28,403 ㎡	0 ㎡	28,403 ㎡	
小計	0 ㎡	141,795 ㎡	0 ㎡	141,795 ㎡	
その他	0 ㎡	66,331,㎡	0 ㎡	66,331,㎡	
合計	0 ㎡	208,126 ㎡	0 ㎡	208,126 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	1,372 ㎡ (1,372 ㎡)	30,087 ㎡ (30,087 ㎡)	9,969 ㎡ (9,969 ㎡)	41,428 ㎡ (41,428 ㎡)	校舎の一部は駒沢女子短期大学と共用。

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	38 室	25 室	50 室	6 室 (補助職員 2 人)	1 室 (補助職員 0 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	心理学科	12 室	申請学科全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
心理学科	102〔24〕 (5,947〔1,640〕)	30〔9〕 (102〔73〕)	1〔0〕 (0〔0〕)	44 (33)	42 (2,147)	0 (17)	申請学科全体
計	102〔24〕 (5,947〔1,640〕)	30〔9〕 (102〔73〕)	1〔0〕 (0〔0〕)	44 (33)	42 (2,147)	0 (17)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	4,889 ㎡	325	293,140 冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	1,726 ㎡	テニスコート 3 面	

経費の見積り及び維持方法の概要 経費の見積り 区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
教員１人当り研究費等		360千円	360千円	360千円	360千円	— 千円	— 千円	図書費にはデータベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
図書購入費	1,500 千円	1,500 千円	3,000 千円	3,000 千円	1,000 千円	— 千円	— 千円	
設備購入費	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	— 千円	— 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,316 千円	1,016 千円	1,016 千円	1,016 千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用、雑収入等

既設大学等の状況

大学の名称	駒沢女子大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
人文学部								東京都稲城市坂浜238番地
日本文化学科	4	60	3年次10	260	学士(日本文化)	1.10	平成5年度	
国際文化学科	4	120	3年次20	520	学士(国際文化)	0.88	平成5年度	
人間関係学科	4	60	—	240	学士(人間関係)	0.83	平成12年度	
空間造形学科	4	60	—	240	学士(空間造形)	0.72	平成14年度	
映像ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	60	—	240	学士(映像ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.66	平成14年度	
人間健康学部								東京都稲城市坂浜238番地
健康栄養学科	4	80	—	320	学士(健康栄養)	0.95	平成21年度	

既設大学等の状況

大学の名称	駒沢女子大学大学院							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
修士課程								東京都稲城市坂浜238番地
人文科学研究科								
仏教文化専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.25	平成14年度	
臨床心理学専攻	2	20	—	40	修士(心理学)	0.78	平成15年度	

既設大学等の状況	大学の名称	駒沢女子短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	保育科	年 2	人 130	年次 人 —	人 260	短期大学士 (保育)	倍 0.95	昭和 40年度	東京都稲城市坂浜 238番地	
附属施設の概要	該当なし									

(注)

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部心理学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通教育科目	教養科目	＜建学の精神実践科目＞													
		仏教学Ⅰ	1前	2			○								兼6
		仏教学Ⅱ	1後	2			○								兼6
		仏教学Ⅲ	2前		2		○								兼2
		仏教学Ⅳ	2後		2		○								兼2
		駒沢女子大学入門	1･2前		2		○								兼2
		＜教養力育成科目＞													
		【人間を学ぶ】													
		人間と思想Ⅰ	1･2前		2		○								兼1
		人間と思想Ⅱ	1･2後		2		○								兼1
		人間と文化	1･2前		2		○								兼1
		生命の科学	1･2後		2		○								兼1
		倫理学	1･2後		2		○								兼1
		心理学Ⅰ	1･2前		2		○								兼2
		心理学Ⅱ	1･2後		2		○								兼2
		【文化と歴史を学ぶ】													
		日本の歴史	1･2前		2		○								兼1
		世界の歴史	1･2後		2		○								兼1
		日本の文学	1･2後		2		○								兼1
		ヨーロッパの文学	1･2後		2		○			1					
		日本美術史	1･2前		2		○								兼1
		西洋文化史	1･2前		2		○								兼1
		考古学	1･2後		2		○								兼1
		【社会の仕組を学ぶ】													
		世界の政治	1･2前		2		○								兼1
		世界の経済	1･2後		2		○								兼1
		新聞と報道	1･2後		2		○								兼1
		法学	1･2前		2		○								兼1
		社会学Ⅰ	1･2前		2		○								兼2
		社会学Ⅱ	1･2後		2		○								兼2
		【科学の世界を学ぶ】													
		数学の世界	1･2前		2		○								兼1
		物理の世界	1･2後		2		○								兼1
		生物と生命	1･2前		2		○								兼1
		地球と宇宙	1･2後		2		○								兼1
		物質と化学	1･2後		2		○								兼1
		情報と科学	1･2前		2		○								兼1
		【教養特設科目】													
		教養知ＡⅠ	2後		2		○			1					兼3
		教養知ＡⅡ	3前		2		○			1					兼3
		教養知ＢⅠ	2後		2		○								兼3
		教養知ＢⅡ	3前		2		○								兼3
		小計（35科目）	－	4	66	0	－			2	0	0	0	0	兼35
	外国語科目	＜第1外国語科目＞													
		英語ＡⅠ	1前	1				○							兼14
		英語ＡⅡ	1後	1				○							兼14
		英語ＡⅢ	2前	1				○							兼14
		英語ＡⅣ	2後	1				○							兼14
		英語ＢⅠ	1前	1				○		1					兼13
		英語ＢⅡ	1後	1				○		1					兼13
		英語ＢⅢ	2前	1				○		1					兼13
		英語ＢⅣ	2後	1				○		1					兼13
		＜第2外国語科目＞													
		基礎フランス語Ⅰ	1･2前		1			○			1				兼1
		基礎フランス語Ⅱ	1･2後		1			○			1				兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1･2前		1			○		1					
		基礎ドイツ語Ⅱ	1･2後		1			○		1					
		基礎スペイン語Ⅰ	1･2前		1			○							兼1
		基礎スペイン語Ⅱ	1･2後		1			○							兼1
		基礎中国語Ⅰ	1･2前		1			○		1					
		基礎中国語Ⅱ	1･2後		1			○		1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
共通教育科目	外国語科目	フランス語ⅠA	1前		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅡA	1後		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅢA	2前		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅣA	2後		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅠB	1前		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅡB	1後		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅢB	2前		1			○			1				兼2	
		フランス語ⅣB	2後		1			○			1				兼2	
		ドイツ語ⅠA	1前		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅡA	1後		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅢA	2前		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅣA	2後		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅠB	1前		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅡB	1後		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅢB	2前		1			○							兼2	
		ドイツ語ⅣB	2後		1			○							兼2	
		スペイン語ⅠA	1前		1			○							兼2	
		スペイン語ⅡA	1後		1			○							兼2	
		スペイン語ⅢA	2前		1			○							兼2	
		スペイン語ⅣA	2後		1			○							兼2	
		スペイン語ⅠB	1前		1			○							兼2	
		スペイン語ⅡB	1後		1			○							兼2	
		スペイン語ⅢB	2前		1			○							兼2	
		スペイン語ⅣB	2後		1			○							兼2	
		中国語ⅠA	1前		1			○		1					兼1	
		中国語ⅡA	1後		1			○		1					兼1	
		中国語ⅢA	2前		1			○		1					兼1	
		中国語ⅣA	2後		1			○		1					兼1	
		中国語ⅠB	1前		1			○							兼2	
		中国語ⅡB	1後		1			○							兼2	
		中国語ⅢB	2前		1			○							兼2	
		中国語ⅣB	2後		1			○							兼2	
		小計（48科目）	－	8	40	0		－		3	1	0	0	0	兼29	－
	情報科目	コンピュータ演習Ⅰ	1前	1				○							兼8	
		コンピュータ演習Ⅱ	1･2後		1			○							兼3	
		コンピュータ演習Ⅲ	1･2前		1			○							兼3	
		コンピュータ演習Ⅳ	1･2後		1			○							兼3	
		小計（4科目）	－	1	3	0		－		0	0	0	0	0	兼8	－
	就業力育成科目	＜言語力育成科目＞														
		言語表現演習Ⅰ	1前	1				○							兼15	
		言語表現演習Ⅱ	1後	1				○							兼15	
		＜キャリア力育成科目＞														
		進路設計	1後	2			○								兼2	
		社会と教養演習A	2前		1			○							兼1	
		社会と教養演習B	2前		1			○							兼1	
		社会と教養演習C	2後		1			○							兼1	
		社会と教養演習D	2後		1			○							兼1	
		キャリアリテラシー	3前		2		○								兼1	
		小計（8科目）	－	4	6	0		－		0	0	0	0	0	兼15	－
	体育科目	スポーツⅠ	1･2前		1				○						兼4	
		スポーツⅡ	1･2後		1				○						兼4	
		小計（2科目）	－	0	2	0		－		0	0	0	0	0	兼4	－
	特設科目	＜留学生・帰国生徒対象科目＞														
		日本語RⅠA	1前	1				○							兼1	
		日本語RⅠB	1前	1				○							兼1	
		日本語RⅡA	1後	1				○							兼1	留学生・帰国生徒以外は履修することができない
		日本語RⅡB	1後	1				○							兼1	
		日本語RⅢA	2前	1				○							兼1	
		日本語RⅢB	2前	1				○							兼1	
		日本語RⅣA	2後	1				○							兼1	12科目16単位必修（留学生・帰国生徒のみ）
		日本語RⅣB	2後	1				○							兼1	
		日本事情Ⅰ	1前	2			○								兼1	
		日本事情Ⅱ	1後	2			○								兼1	
		日本事情Ⅲ	2前	2			○								兼1	
		日本事情Ⅳ	2後	2			○								兼1	
		小計（12科目）	－	16	0	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
	共通教育科目 小計(109科目)		－	33	117	0		－		3	1	0	0	0	兼92	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	共通専門科目	基礎ゼミⅠ	1前	1				○		4	3	1			
		基礎ゼミⅡ	1後	1				○		4	3	1			
		基礎ゼミⅢ	2前	1				○		4	3	1			
		心理学の基礎Ⅰ	1前	2			○					1			
		心理学の基礎Ⅱ	1後	2			○			1					
		心理学実験実習Ⅰ	2前	2					○	1					兼2 2コマ連続
		心理学実験実習Ⅱ	2後	2					○			1			兼2 2コマ連続
		心理学研究法Ⅰ	3前	2			○			1					
		心理学研究法Ⅱ	3後	2			○			1					
		心理統計法Ⅰ	1･2前		2		○								兼1
		心理統計法Ⅱ	1･2後		2		○								兼1
		文芸と心理	2･3･4後		2		○			1					オムニバス
		言葉と心理	2･3･4後		2		○			1	1				
		心理学英語講読	3前		2		○								兼1
		学外実習	3後		1				○	2		2			集中
		小計（15科目）	－	15	11	0	－			5	3	2	0	0	兼4
	現代心理学コース専門科目	社会心理学Ⅰ	2前	2			○								兼1
		社会心理学Ⅱ	2後	2			○								兼1
		発達心理学Ⅰ	2前	2			○					1			
		発達心理学Ⅱ	2後	2			○					1			
		犯罪心理学Ⅰ	2･3前		2		○			1					
		犯罪心理学Ⅱ	2･3後		2		○			1					
		認知心理学	2･3前		2		○								兼1
		家族心理学	2･3後		2		○			1					
		教育心理学	2･3･4前		2		○			1					
		健康心理学	2･3･4後		2		○								兼1
		コミュニティ心理学	2･3･4後		2		○				1				
		スポーツ心理学	2･3･4後		2		○								兼1
		産業心理学	2･3･4前		2		○					1			
		消費者心理学	2･3･4後		2		○								兼1
		社会福祉援助論	2･3･4後		2		○								兼1
		高齢者心理学	2･3･4後		2		○								兼1
		対人援助論Ⅰ	3･4前		2		○								兼1
		対人援助論Ⅱ	3･4後		2		○								兼1
		現代心理学実習	3前	2					○	1		1			2コマ連続
		現代心理学ゼミAⅠ	3前		1			○		1					現代心理学ゼミA～Dは、同一のゼミを4科目（Ⅰ～Ⅳ）4単位選択必修
		現代心理学ゼミAⅡ	3後		1			○		1					
		現代心理学ゼミAⅢ	4前		1			○		1					
		現代心理学ゼミAⅣ	4後		1			○		1					
		現代心理学ゼミBⅠ	3前		1			○		1					
		現代心理学ゼミBⅡ	3後		1			○		1					
		現代心理学ゼミBⅢ	4前		1			○		1					
		現代心理学ゼミBⅣ	4後		1			○		1					
		現代心理学ゼミCⅠ	3前		1			○				1			
		現代心理学ゼミCⅡ	3後		1			○				1			
		現代心理学ゼミCⅢ	4前		1			○				1			
		現代心理学ゼミCⅣ	4後		1			○				1			
		現代心理学ゼミDⅠ	3前		1			○				1			
		現代心理学ゼミDⅡ	3後		1			○				1			
		現代心理学ゼミDⅢ	4前		1			○				1			
		現代心理学ゼミDⅣ	4後		1			○				1			
		卒業論文	4通		4			○		2		2			
		小計（36科目）	－	10	48	0	－			3	1	2	0	0	兼8

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	臨床心理学Ⅰ	2前	2			○				1					
		臨床心理学Ⅱ	2後	2			○			1						
		人格心理学Ⅰ	2前	2			○					1				
		人格心理学Ⅱ	2後	2			○					1				
		心理検査法Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
		心理検査法Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
		精神医学	2･3･4前		2		○								兼1	
		学校心理学	2･3･4前		2		○								兼1	
		医療心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
		カウンセリング論	2･3･4後		2		○			1						
		障害者援助論	2･3･4前		2		○								兼1	
		精神病跡学	2･3･4前		2		○				1					
		神経心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
		言語心理学	2･3･4後		2		○								兼1	
		比較行動学	2･3･4後		2		○								兼1	
		発達臨床	2･3･4後		2		○								兼1	
		心理療法論Ⅰ	3･4前		2		○				1					
		心理療法論Ⅱ	3･4後		2		○				1					
		臨床心理学実習	3前	2					○						兼1	2コマ連続
		臨床心理学ゼミAⅠ	3前		1			○		1						臨床心理学ゼミA～Dは、同一のゼミを4科目（Ⅰ～Ⅳ）4単位選択必修
		臨床心理学ゼミAⅡ	3後		1			○		1						
		臨床心理学ゼミAⅢ	4前		1			○		1						
		臨床心理学ゼミAⅣ	4後		1			○		1						
		臨床心理学ゼミBⅠ	3前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミBⅡ	3後		1			○			1					
		臨床心理学ゼミBⅢ	4前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミBⅣ	4後		1			○			1					
		臨床心理学ゼミCⅠ	3前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミCⅡ	3後		1			○			1					
		臨床心理学ゼミCⅢ	4前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミCⅣ	4後		1			○			1					
		臨床心理学ゼミDⅠ	3前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミDⅡ	3後		1			○			1					
		臨床心理学ゼミDⅢ	4前		1			○			1					
		臨床心理学ゼミDⅣ	4後		1			○			1					
		卒業論文	4通		4			○		1	3					
		小計（36科目）	－	10	48	0	－			1	3	1	0	0	兼10	
	専門教育科目 小計（87科目）		－	35	107	0	－			6	4	2	0	0	兼20	
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		博物館概論	1･2前			2	○								兼1	
		博物館経営論	1･2前			2	○								兼1	
		博物館資料論	3前			2	○								兼1	
		博物館資料保存論	1･2後			2	○								兼1	
		博物館展示論	2後			2	○								兼1	
		博物館教育論	1･2前			2	○								兼1	
		博物館情報・メディア論	1･2後			2	○								兼1	
		博物館実習A	3後			1			○						兼2	
		博物館実習B	4前			1			○						兼2	
		博物館実習C	4通			2			○						兼1	
		小計（11科目）	－	0	2	18	－			0	0	0	0	0	兼5	－
	基礎選択必修科目	世界のミュージアム	2･3前		2		○			1					兼3	オムニバス
		日本のミュージアム	2･3後		2		○								兼1	
		西洋文化史	1･2後		2		○								兼1	
		西洋美術の旅Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
		西洋美術の旅Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
		日本美術史入門	1後		2		○								兼1	
		日本美術史	1･2前		2		○								兼1	
		考古学	1･2後		2		○								兼1	
		小計（8科目）	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	兼5	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	異文化との出会いF（イタリア）	2･3･4後		2		○								兼1	
		映像人類学	2･3･4前		2		○								兼1	
		考古学Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
		考古学Ⅱ	2･3･4前		2		○								兼1	
		日本美術史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
		日本美術史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
		文化交流史Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
		文化交流史Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
		民俗学Ⅰ	2･3･4前		2		○								兼1	
		民俗学Ⅱ	2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼5	－
	博物館学芸員科目 小計（29科目）		－	0	38	18	－			1	0	0	0	0	兼10	－
合　計　（225科目）			－	68	262	18	－			6	4	2	0	0	兼118	

学位又は称号	学士（心理学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目33単位以上（必修及び選択必修を含む）、専門教育科目62単位以上を修得し、124単位以上修得すること。専門教育科目については、共通専門科目を15単位以上（必修9科目15単位を含む）、コース専門科目を32単位以上（必修5科目10単位、専門ゼミ4単位を含む）修得しなければならない。 （履修科目の登録の上限：46単位（年間）））	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その３の１）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部 心理学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	仏教学Ⅰ	本学の建学の精神の基盤となる仏教思想の基本を学ぶ。具体的には、釈尊の生涯を、誕生と青年期の苦悩から最後の旅と説法そして入滅まで、当時のインドの歴史的文化的背景を踏まえて解説する。また、四諦と十二縁起、中道と無記等、釈尊の示した根本的な教説を紹介しつつ、現代の日本人にも当てはまる普遍的な問題を解説していく。なお前期のうち２回程度、学内施設である照心館において坐禅実習を行う。	
		仏教学Ⅱ	本講義は、前期の「仏教学Ⅰ」で学んだ事項を前提として、中国、日本への仏教の伝播の歴史、曹洞宗を日本に伝えた道元の生涯とその教え、さらに日本文化との関わりまで幅広く学習する。まず、中国における仏教の受容、諸宗派の成立と禅宗の展開を解説した後、日本における仏教伝来と諸宗派の展開に触れ、最後に道元禅師の生涯及び『典座教訓』の教えを学んでみたい。前期同様、坐禅実習を行い、禅の工夫と体得に努める。	
		仏教学Ⅲ	本講義は、「仏教学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基礎として、女性と仏教をテーマに講義を行う。仏教の開祖である釈尊と女性、日本の古代・中世における女性と仏教、そして道元禅師の女性観について『正法眼蔵』の「出家得随」から学んでみたい。あわせて、坐禅実習を通じ、坐禅の仕方にとどまらず、日常の礼儀作法についても学習する。この講義を通じて、仏教が今後の人生において何らかの指針となるように授業を進めていきたい。	
		仏教学Ⅳ	本講義は、本学の建学の精神である「正念」及び「行学一如」と深い関わりのある禅の思想について概説する。始めに般若経の空思想について確認し、その上で空思想の展開として中国で禅宗の実践的思想がどのような特徴を有していくのかを解説していく。内容的には「非思量」の問題、善悪等の倫理的問題、時間論、自己確立（主人公）の問題、諸法実相などについて、臨済録や普勧坐禅儀などのテキストに基づいて説明する。	
		駒沢女子大学入門	駒沢女子大学に入学した諸姉が、卒業までの４年間、大学生活を送っていくうえで最低限必要な行動規範や基礎知識を習得する。具体的には、学園史のほか、建学の精神を基軸とし、大学の学びで涵養される知識、知見、専門的な知を現代の思想としてどのように再編するかを考察する。講義の性格上、花まつり、追善記念日、摂心会、成道会、誕生記念日、涅槃会など、一連の行事とも絡めて授業を進めていきたい。	
		人間と思想Ⅰ	哲学のすべての問題は「人間とは何か」という問題に帰着するといわれる。本講義では、欧米の哲学における「人間観」を類型化し、古代ギリシアから２０世紀に至るまでの系譜を辿ることによって、人間について考えるための材料を提示する。現代を支配する１７世紀以降の近代の人間観が、古代ギリシア時代に始まり、中世・ルネサンス期の変遷を経て、どのように展開してきたのかを追ってみたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	人間と思想Ⅱ	人間については種々の観点から捉えることができるが、ここで人間学というのは、人間の全体像についての議論を指している。本講義では、人間学上の諸問題を哲学の視点から紹介・検討することにより、人間の全体像について考えるための指針を提示する。特に、全体としての、また個としての人間の有り様、自己と身体、自己と他者、自己と自由、自己と価値の問題を中心に学んでみたい。	
		人間と文化	人間とは文化をもった動物であるといわれる。本講義は文化人類学の視点から、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫りたい。民族誌映画などの映像資料を利用しつつ「異文化のイメージ」をキーワードに「文化」に隠された仕掛けを解き明かし、これらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに歴史意識を検証することがねらいである。	
		生命の科学	「生命」とはどのような仕組みを有しているのかを、医学、生物学等、複数の視点からとらえていくことを本授業の目的とする。講義では、女性に焦点を絞り、生命の誕生、維持、そして終焉に至るステージごとに、生命の進化、すなわちＤＮＡに仕組まれた生命の設計図の不思議さについて学修する。この学びを通して、生命を育む女性としてより強く生きる姿勢を育むことが本講義のねらいである。	
		倫理学	現代社会における倫理的諸問題を紹介・検討することによって、私たちが社会に対してどのように関わるべきかについて講義を進めていきたい。倫理的判断とは一体どのようなものなのか、絶対的な倫理観というものは存在するのか、ソクラテス等、古代ギリシアの哲学者の言説を参照しながら、このような問題を読み解いていきたい。学生自らが授業に参加し、考え、発言できるような授業にしていく予定である。	
		心理学Ⅰ	この授業では、心にまつわる様々な現象が、現在までどのような仮説のもとに説明されてきているのかを理解するとともに、新たな視点を見い出していくことを目標とする。私たちは、日常生活のなかで環境から受ける多くの刺激や情報をどのように処理し理解しているのか、脳内機序や身体への発現状況を探りながら、その過程で生じるズレや思い込みなどについて学んでいきたい。	
		心理学Ⅱ	この授業では、私たちが誕生してから死に至るまでどのような課題に取り組み成長していくのか、その過程における対人関係を含む社会との関わりについて理解することを目標とする。特に、乳幼児期の感覚能力と愛着感情、その後の知覚の成立や知的発達を中心に講義を進め、加えて、日常生活で体験するストレスや心の問題とその理解の枠組みについても学んでみたい。途中で錯視の体験等も入れる予定である。	
		日本の歴史	環境問題が深刻化する現在、歴史学においても環境を意識した研究が進んでいる。こうした成果に学びつつ、環境と人間の関係から、日本の歴史を見直していくことが本講義の目的である。具体的には、歴史時代の気候変動データをいくつか提示し、それが実際の歴史の動きとどのような関係を持っていたのか、江戸の都市環境、中世の開発と山林利用等を事例として探っていきたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	世界の歴史	現代の国際社会の情勢を解読するには、これまでに繰り広げられてきた歴史の理解なしには難しい。地球規模で広がってきた通商・交易の歴史を概観し、人、モノ、金、技術、思想の移動がもたらした紛争と融和について、東西交渉史の視点から議論したい。さらに、従来の西欧中心の歴史観からいかに脱却していけばよいのかについて、いくつかの事例を紹介しながら、学生諸氏と討論形式で考えていく。	
		日本の文学	『源氏物語』の夕顔巻を中心に講読することで、古典文学に親しむことを本授業の目的とする。光源氏が偶然に出会った謎めいた女君は、逢瀬の最中に物の怪によって取り殺される。偶然の出会いと死の物語は、まさに、元祖サスペンスドラマといえる。さらに、『更級日記』の作者が夕顔の女君にあこがれたのはなぜか、漫画『あさきゆめみし』にはどのように描かれているかなど、享受の面からも考えていく。	
		ヨーロッパの文学	ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその背景に潜む問題性を歴史的に概観する。具体的には、1）『トリスタンとイゾルデ』 2）ダンテ『神曲』 3）『ロミオとジュリエット』 4）ゲーテの初期抒情詩と『若きヴァルターの悩み』 5）グリム童話 6）カフカ『変身』などを材料として、それぞれの文学の時代背景に言及しながら、時代を超えた文学の普遍性を考察していく。	
		日本美術史	日本の美術を飛鳥時代から鎌倉時代まで、絵画を中心に概観する。日本の絵画には、独特な特徴を持つ約束があるので、それらを具体的な作品に則して学んでいく。前半は主に仏教絵画を中心に紹介し、仏像と対照しながら仏画の果たした役割を知る。後半は、平安後期から盛んに描かれた絵巻を重点的に扱う。独特な表現方法や、豊かな内容にふれ、現代に通じる絵巻の魅力を味わいたい。授業全体を通して、日本の絵画の基本的な特徴を学べるようにしたい。	
		西洋文化史	ヨーロッパ文化の特質とその流れを、ビデオやスライドを多用して概観する。さらに、日記、手紙などから、装飾品や日常の必需品に至るまで多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知り、各時代の文化を学び取ることを目標としたい。本年度は、古代世界からヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスの文化までを扱う予定である。	
		考古学	この講義では、まず縄文文化と弥生文化を比較することにより、両文化の基本的な特質を学ぶ。次に、縄文時代に焦点をあて、当該文化を日常生活と精神世界の両面から見ていくことにしたい。縄文文化の継続年数はとても長く、この時代に日本の文化の基盤が築かれたといっても過言ではない。縄文文化の話を通じて、日本の文化や歴史のはじまりについて学んでいくことが本授業のねらいである。	
		世界の政治	本講義は、現代の国際情勢を理解する基礎知識を養うことを目的とする。１５回の授業を通して、国際社会における戦争、民族紛争、国際テロ、環境問題などを読み解く上で必要な視点を養って貰いたい。また国際社会における日本のポジション、役割などについても一緒に考えてみたい。様々な角度から政治の問題を取り上げることで、国際社会への関心を高め、社会で生活していくうえでの素養を身に付けていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	世界の経済	社会人になると、自ら問題を発見し、調べ、解決策を考え、実行することが求められるようになる。そのためには、新聞、雑誌記事や関連書籍を読み、あるいは専門家に聞いて、情報収集をしなければならない。この授業は、国際的な経済情勢や内外の企業動向に関する問題について考えるとき、正しく理解できるだけの基礎と常識、経済学的な考え方を身に付けることを目的とする。	
		新聞と報道	新聞は世の中の動向を知るための最も身近な情報源である。本講義は、まず新聞に慣れ親しんでもらうために、様々なジャンルの記事を皆で読んでみたい。その後、新聞メディアにおける「表現の自由」とは何かを以下のトピックを提供して議論する。出来事の表現、物語としてのニュース、事件報道と人権、客観的な報道、報道制限、報道内容に対する異議申し立て、新メディア媒体としての電子版新聞。	
		法学	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定された。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めている。この授業は、こうした国家統治の仕組みを中心に授業を進める。さらに、現在、憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていく。結論を急がず、私たちの社会における基本法のあり方を考えていくきっかけとしたい。	
		社会学Ⅰ	本講義では、社会学的な視点を獲得することを目標とし、これまでの重要な社会学理論を紹介する。その際、(1)「社会」と「わたし」との関係性の問題 、(2)「近代」という問題の二つを大きなテーマとして設定する。人間は社会のなかに住まうものであるから、個人的な問題もまた社会との関係において捉えられなくてはならない。また社会学はその成立から「近代」という問題を背負っており、現代社会を考えるときにも「近代」という歴史的な軸は無視しえない。これらふたつの問いを念頭におきながら講義を進める予定である。	
		社会学Ⅱ	本講義は「文化」というテーマをおき、現代文化に関する事例と社会学理論を通して、「文化」を「社会」との関わりから読み解く視点を身につけること、そこから「文化」や「社会」そのものについて考える契機を獲得することを目標とする。私たちは普段、テレビやコンピュータ、携帯電話等のさまざまな文化を楽しんだり、利用したりしている。講義では、こうした日常の生活から少しだけ距離をとり、私たちの社会や私たち自身を知るためのきっかけとして「文化」を捉えてみたいと思う。	
		数学の世界	数学というと敬遠しがちな科目の代表格であるが、実は、数学は哲学とも結び付く、人間の本質と深い関わりをもった学問である。本講義は、まず数学の楽しさ、奥深さについて話をしてみたい。その後、社会に出てからも役立つような数学の基礎を講じることにする。具体的には、式と計算、平方と平方根、一元一次方程式、連立方程式、グラフと関数、図形の面積･体積、合同と相似等について学びたい。	
		物理の世界	物理の考え方は生活に溶けこみ、日頃意識されることはほとんどない。しかし、物理学は、物質を極限まで突き詰めていくと宇宙創成の問題にまで展開するようなダイナミズムを秘めた学問である。この講義では、目には直接見えない「力」の物理現象について議論を深めたい。加速度、遠心力などの物理学的な理解からはじまり、構造、剛性、耐震についての考え方と、その大きさを計算する手法を平易に講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	生物と生命	生物及び生命について、古生物学、遺伝学、ＤＮＡ遺伝子学等から得られた知見を基に講義する。地球という惑星に生命はどのようにして誕生したのか、生物は進化しどのようにしてホモ･サピエンスにまでたどり着いたのか、生命の大切さを意識しながら生物進化の過程を跡づけることが本講義の目的である。そして個々の生物の生き残りをかけた戦略と生物の多様性について議論し、人間が生きてゆくことの意義を考えたい。	
		地球と宇宙	古代より太陽・月・星は、人びとを魅了してきた。人類は、夜空に巨大な絵を描いたり、運命を託したり、また宇宙にまつわる物語を創世している。講義は、さまざまな民族が描いてきた宇宙観を概観することから始まる。そして、宇宙創成であるとされるビックバン以後の宇宙の成り立ちを、星の誕生や終焉を学ぶことで理解する。宇宙を見つめることで、かけがえのない惑星である地球の特質に関して学識を深めていきたい。	
		物質と化学	本講義は、人間が生きてゆくには、日々「食物」をとりエネルギーに変えていかなければ生体を維持できない事実を出発点とし、そこにおける変化の過程を化学的な視点でとらえていくことを目的とする。化学式を多用することなく、身体の維持に必要な栄養について栄養科学の視点で考えてみたい。活動に必要なエネルギー生成の科学的なメカニズムを探ることで、日々摂取する食事に対する新たな視点を提供する。	
		情報と科学	本授業は、言語をはじめ、視覚、聴覚など五感で見いだした情報を再編しあらたな表現として発信するために必要とする、ＩＴ端末やネットワークの仕組み、安全対策について理解することを目的とする。特に、過去から現在に至る情報の歴史、世界史の新たな段階である情報社会という視点を重視したい。このような理解を通して最後は、フェイスブックに代表されるＳＮＳの可能性と限界について情報科学の立場から議論する。	
		教養知ＡⅠ	中国をはじめとするアジア諸国の文化は、言語（漢字等）・衣食住（絹・米・茶等）、精神文化（仏教・儒教・陰陽道など）など、諸方面で日本に影響を与えてきたが、日本人はその影響を受けつつも独自の文化と歴史を育んできた。そしてそこに日本文化の伝統が生まれた。本講義はアジアと日本の文化について、さまざまな観点から解説し、異文化に対する深い理解と交流を可能とする、高度で幅広い教養の習得をめざす。	共同担当
		教養知ＡⅡ	前期の「教養知ＡⅠ」で扱ったアジアの生活と文化に関する具体的な事例を踏まえ、「文化を支える諸要因」として、様々な切り口から「文化と交流」について考察する。年中行事、冠婚葬祭、食生活、喫茶の風習、日本の住まい、日本庭園、服装文化など、より身近な話題を選び、学生諸氏とのディスカッションを通じて深い教養知を養っていくことが、本講義のねらいである。	共同担当
		教養知ＢⅠ	今日、日本では、産業構造の変化や地域間格差、高齢化などを背景に、コミュニティーのあり方をめぐって様々な問題が、都市・地方の枠を越えて多くの人びとの関心事となっている。本講義は、社会学、ボランティア論、地域開発論を学術的基層として、これらの問題解決へのアプローチをシミュレートする。社会科学的学知センス、及び活力あるコミュニティーを創出するために求められている課題対応能力とコミュニケーション能力を涵養していきたい。	共同担当

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	教養知ＢⅡ	「教養知ＢＩ」の学習をさらに発展させ、コミュニティーを活性化する持続的な活動とは何かについて、まず様々な事例を通して学ぶ（事例研究）。そして、具体的な地域を対象にし、計画書をプロジェクト･サイクル･マネージメントなどの開発手法を用い作成する。また活動の評価手法について学ぶ。これらの作業を通して、ファシリテーション能力とコミュニケーション能力を磨きあげることをねらいとしたい。	共同担当
	外国語科目	英語ＡＩ	学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎力を育成する授業を行う。主に「リスニング」を中心として、例えば、「聞いたことを話す」など、技能の統合を目指した授業を行う。使うことで文法や語彙の必要性を感じさせ復習を行い、そしてまた使う機会を与える。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、学習法をアドバイスしていく。	
		英語ＡⅡ	学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎力を育成する授業を行う。主に「スピーキング」を中心として、例えば、「スピーキングしたことを書く。書いたことを読みあう」など、技能の統合を目指した授業を行う。使うことで文法や語彙の必要性を感じさせ復習を行い、そしてまた使う機会を与える。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、学習法をアドバイスしていく。	
		英語ＡⅢ	学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎力を育成する授業を行う。主に「ライティング」を中心として、例えば、「書いたことを読みあう」など技能の統合を目指した授業を行う。使うことで文法や語彙の必要性を感じさせ復習を行い、そしてまた使う機会を与える。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、学習法をアドバイスしていく。	
		英語ＡⅣ	学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎力を育成する授業を行う。主に「リーディング」を中心として、例えば、「読んだことを書く」など、技能の統合を目指した授業を行う。使うことで文法や語彙の必要性を感じさせ復習を行い、そしてまた使う機会を与える。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、学習法をアドバイスしていく。	
		英語ＢＩ	英語Aで学んだことを生かし、学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎を育成する授業を行う。音声だけでなく、文字を生かすことで、例えば、「読んだことをもとに、書く、話す」など他の技能との統合を目指した授業を行う。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、各自の目標を立てさせ、学習法をアドバイスして、3年次以降の各自の英語学習に助けにする。	
		英語ＢⅡ	英語Aで学んだことを生かし、学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎を育成する授業を行う。主に語彙を拡充する活動を行う。例えば、「自分を表現するために必要な語彙を増やす活動」などを行う。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、各自の目標を立てさせ、学習法をアドバイスして、3年次以降の各自の英語学習に助けにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	英語ＢⅢ	英語Aで学んだことを生かし、学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎を完成を目指す授業を行う。使うことにより文法の必要性を感じさせる活動を行う。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、各自の目標を立てさせ、学習法をアドバイスして、3年次以降の各自の英語学習に助けにする。	
		英語ＢⅣ	英語Aで学んだことを生かし、学生の現状、ニーズ、英語学習に対する思いを把握しながら、「達成感」「伸長感」を感じる活動を通して、英語の運用能力の基礎を完成を目指す授業を行う。これまで習ったきたことを復習しながら、４技能との統合を目指した授業を行う。また個を大切にする観点から、学生のこれまでの学習状況を把握し、各自の目標を立てさせ、学習法をアドバイスして、3年次以降の各自の英語学習に助けにする。	
		基礎ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。 基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法･語彙の規則を学ぶ。　音の規則（発音の仕方・聴き取り練習）を徹底的に練習し、日本語にはない音や英語とは異なる音、間違えやすい音の理解と修得を目指す。また、基本的な挨拶の仕方や基礎的な動詞（être, avoir,第１郡規則動詞）、国籍、職業、名前の表現の仕方などを覚える。	
		基礎ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ	基礎フランス語Ⅰで学習した音声、語彙、文法を復習するとともに、さらに、基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。　また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力向上に重点を置いた授業である。	
		基礎ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ	会話を中心にドイツ語の基礎運用能力を身につける。具体的には聞き取り、対話などの口頭練習を通して、ドイツ語を聞いたり発音したりすることに慣れ、日常的な表現と基礎語彙、初級文法前半の習得を目指す。またさらに、教科書で扱われている題材をもとに、ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。「基礎ドイツ語Ⅱ」終了時点でドイツ語技能検定試験５級の取得を目指す。	
		基礎ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ	「基礎ドイツ語Ⅰ」に続いて、会話を中心とするドイツ語の基礎学習を行う。聞き取り、対話などの口頭練習を通して、ドイツ語を聞いたり発音したりすることに慣れ、日常的な表現と基礎語彙を学習しながら、初級文法後半の習得を目標とする。教科書で扱われている題材をもとに、ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。 ドイツ語技能検定試験５級の取得を目指す。	
		基礎ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅰ	スペイン語は世界で3億5千万人が話す、英語･中国語に次いで使用人口が多い言語である。20カ国に及ぶスペイン語圏の人々の生活や文化は多様性に富み、私たちを惹きつけて止まない魅力を持っている。この授業では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、スペイン旅行を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	基礎ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅱ	前期に引き続き、スペイン語の基礎的な文法事項を学ぶと同時に、スペイン旅行を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力をさらに向上させることを目指す。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	
		基礎中国語Ⅰ	中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。また中国市場の開放や、経済的な躍進、北京オリンピックや上海万博開催などによって、中国や中国語に対する関心も高まっている。中国語は漢字表記される点で、日本人にとっては学びやすい言語であるが、その一方で日本語との同形異義語も多く存在するため、用法を間違えて誤解を生むことも多々ある。この授業は、中国語と日本語の発想の違いとともに基本文法を学び、コミュニケーションに必要な基本会話の習得を目指すものである。	
		基礎中国語Ⅱ	この授業では、基礎中国語Ⅰで学んだ基本文法を確認しつつ、やや発展的な文法も学びながら、中国語での表現を豊かにするために必要とされる語彙や慣用表現を学習し、会話練習や聞き取り練習を繰り返すことによって、中国語のコミュニケーション力を養成することを目指す。また、授業では、随時写真や映像資料を利用しながら、中国文化や現代中国事情なども紹介し、中国語だけにとどまらず、言葉の背景にある異文化への理解と関心を深めていくように導いていく。	
		フランス語ＩＡ	基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法･語彙の規則を学ぶ。　本クラスは音声面を中心とした授業であり、特に、音の規則（発音の仕方・聴き取り練習）を徹底的に練習し、日本語にない音や英語とは異なる音、間違えやすい音の理解と修得を目指す。フランス語特有のアルファベットや、アクサン記号、語末の子音字、短母音字、複合母音、鼻母音、基礎的な動詞（être, avoir,）、国籍、職業、名前の表現の仕方などを覚える。	
		フランス語ⅡＡ	フランス語ＩＡで学習した音声、語彙、文法を復習するとともに、さらに、基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の冠詞に慣れ親しみ、日本語にはない冠詞の用法を理解する。 特に、文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。	
		フランス語ⅢＡ	フランス語会話Ⅰ・Ⅱで慣れ親しんだフランス語の音の規則を復習するとともに、さらに、会話力（発話、聞き取り）の向上に努める。　現在時制(現在形)のみならず、過去時制(複合過去形)や未来時制(単純未来)、比較級、最上級、などを学び、自然な発話が出来るように努める。また、実用フランス語技能検定試験に向けた会話（発話、聞き取り）練習を重ね、５級、４級の合格を目指す。	
		フランス語ⅣＡ	フランス語会話Ⅰ･Ⅱ･Ⅲで慣れ親しんだフランス語の音の規則を復習するとともに、さらに、会話力（発話・聞き取り）の向上に努める。　特に、[書き言葉]とは異なった[話し言葉]特有の表現を学び、家族を語る、仕事を語る、予約する、断る、義務、必要性を述べる、人生を語る、など、より実践的なコミュニケーション能力を身につける。引き続き、実用フランス語技能検定試験に向けた会話（発話、聞き取り）練習を重ね、５級, ４級（３級）の合格を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	フランス語ＩＢ	基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。主に、フランス語特有の、名詞の性（男性名詞・女性名詞）と数（複数形）や冠詞の種類と用法、前置詞と定冠詞の縮約、人称代名詞、基礎的な動詞(avoir, être、第１郡規則動詞)、形容詞の姓・数の一致、提示の表現、疑問形などを学び、フランス語の語彙と、初歩的な「フランス文法能力」を身につけ、文の構造を理解する。	
		フランス語ⅡＢ	フランス語ＩＢに引き続き、基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。 様々な形容詞の種類と用法（指示形容詞、疑問形容詞、所有形容詞）や基本動詞（aller,venir、finir, partir, voir, dire,）現在形の活用、 近接過去、近接未来、疑問代名詞、疑問副詞、比較級、最上級、などを学び、実用フランス語技能検定試験５級に対応できる語彙と初級文法能力を身につける。	
		フランス語ⅢＢ	フランス語Ⅰ・Ⅱで慣れ親しんだフランス語の規則を復習するとともに、総合的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の向上に努める。　特殊な比較級･最上級、直接目的語・間接目的語の人称代名詞、強勢形、非人称構文、関係代名詞、強調構文、命令形、過去分詞と過去時制などを学ぶ。　また、実用フランス語技能検定試験（５級・４級）の取得を目指し、語彙と中級文法能力を身につける。	
		フランス語ⅣＢ	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで慣れ親しんだフランス語の規則を復習するとともに、さらに総合的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の向上に努める。代名動詞、指示代名詞、動詞(pouvoir, vouloir, devoir), 未来時制（単純未来形）、中性代名詞、過去時制（半過去）、現在分詞、ジェロンディフなどを学ぶ。さらに、実用フランス語技能検定試験（５級・４級・３級）の取得を目指し、語彙と中級～上級文法能力を身につける。	
		ドイツ語ＩＡ	「ドイツ語ⅡＡ」と合わせて、初歩的なドイツ語会話を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる能力を身につける。すなわち、会話を中心にドイツ語の基礎を習得することを目標とし。具体的には日常的な会話文の反復練習やパートナー練習によって実践訓練を行い、日常的な表現と基礎語彙、初級文法の習得を目指す。教科書の文化コラムや写真を通してドイツ語圏の国々の生活・文化にも触れ、異文化への関心と理解も深めたい。	
		ドイツ語ⅡＡ	「ドイツ語ＩＡ」で学んだ基礎知識をもとに、さらにドイツ語の初級会話の練習を行う。「ドイツ語ＩＡ」と同様に、具体的には会話文やパートナー練習によって実践訓練を行い、日常的な表現と基礎語彙、初級文法を習得することを目標とする。さらに異文化への理解と興味を深め、ドイツ語圏の文化にも触れ、ドイツ語圏の国々の歴史・文化・芸術に関する知識を深める。 ドイツ語技能検定試験５級の取得を目指す。	
		ドイツ語ⅢＡ	「ドイツ語Ⅰ・ⅡＡ」で学んだ知識を土台にして、基礎的なドイツ語を理解し、初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や表現や文が運用できる能力を養うことを目標とする。これまでに学習したドイツ語の基礎を確認しながら、応用的な会話表現の習得を目指す。具体的には家族，学校、職業，買い物など身近な話題に関する会話を扱う。また授業内では、ドイツ語圏の文化や社会についても随時紹介する。ドイツ語技能検定試験４級の取得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	ドイツ語ⅣＡ	「ドイツ語ⅢＡ」に続いて、これまでに学習した基礎的なドイツ語の理解と初歩的な文法規則を用いた日常会話表現を習得する。具体的には、身近な場面での会話力、さらに簡単な手紙やメール文の理解を目指しつつ、比較的簡単な文章の内容を聞き、質問に答え、重要な語句や数字を書き取ることができる能力を養う。また、ドイツ語圏の社会や政治についても随時紹介する。 ドイツ語技能検定試験４級・３級の取得を目指す。	
		ドイツ語ＩＢ	「ドイツ語ＩＢ」から「ドイツ語ⅣＢ」では、初級文法の基本的事項、基礎的な語彙・表現の習得を目標とする。 この「ドイツ語ＩＢ」では、基本的な発音練習から始まり、動詞の現在人称変化、名詞の性と格、冠詞・冠詞類、不規則動詞の人称変化、話法の助動詞、複合動詞、前置詞等を主に学習する。同時にドイツ語圏の諸国の紹介を通じて異文化への理解をひろげる。	
		ドイツ語ⅡＢ	「ドイツ語ＩＢ」での学びを復習しながら、初級文法の基本的事項の学習を続ける。主に動詞の三基本形、動詞の過去人称変化、現在完了形、形容詞・副詞、比較表現、接続詞、副文、再帰表現を中心に学習する。また、基礎的な語彙・表現の習得に留意しつつ、ドイツ語固有の文型の理解を深める。また、発音練習にも重点を置くことで、ドイツ語への親しみを深めたい。 ドイツ語技能検定試験５級の取得を目指す。	
		ドイツ語ⅢＢ	「ドイツ語ＩＡ」ならびに「ドイツ語ⅡＢ」での復習を行い、初級文法の基本的事項の学習を続ける。主に、zu不定詞、受動態、指示代名詞、関係代名詞を中心に学習する。接続法を除く大方の文法事項の説明が終了するため、終盤ではここまでのまとめの反復練習を行い、初級文法の重要事項の修得の定着に努める。さらにドイツ語圏の生活・文化・社会への理解を増すため、さまざまなトピックスを紹介する。 ドイツ語技能検定試験４級の取得を目指す。	
		ドイツ語ⅣＢ	これまでに学習したドイツ語の初級文法を復習しながら、接続法の学習を行った後、初級文法全般にわたるドイツ語の理解力と表現力の向上を目指す。現代ドイツ事情をテーマとしたテキストや図表を用いたさまざまな読解演習を行う。 扱われるテーマを通してドイツ語圏の文化や諸事情への理解も深めていきたい。 ドイツ語技能検定試験４級・３級の取得を目指す。	
		スペイン語ＩＡ	スペイン語は世界で3億5千万人が話す、英語･中国語に次いで使用人口が多い言語である。20カ国に及ぶスペイン語圏の人々の生活や文化は多様性に富み、私たちを惹きつけて止まない魅力を持っている。この授業では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	
		スペイン語ⅡＡ	前期に引き続き、スペイン語の基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現をペアやグループで練習することにより、スペイン語の基本的なコミュニケーション能力をさらに向上させることを目指す。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	スペイン語ⅢＡ	スペイン語ＩA･ⅡAで学んだ事項を充実させるとともに、さらに進んだ文法事項を学んでいく。また、ペアやグループでの会話の練習によりコミュニケーション能力の上達を目指す。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	
		スペイン語ⅣＡ	前期の復習をしながら、さらに複雑な表現ができるように文法事項を学んでいく。現在のことだけではなく、過去や近い未来についても語ることができるよう、ペアやグループでの会話練習に重点を置く。同時にスペイン語圏の生活や文化にも触れていく。	
		スペイン語ＩＢ	スペイン語は世界20カ国、約３億５千万人の人々によって話されている、重要性の高い言語である。この授業ではアルファベットの読み方・発音の決まりから始めて、スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力を養うことを目標とする。特に、基本的文法事項を重点的に学習する。動詞はserとestarの理解を目指す。また、CD・DVDなども使い、スペイン語圏の文化や生活にも触れていく。	
		スペイン語ⅡＢ	スペイン語I Bに引き続き、スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力をさらに養うことを目標とする。特に、動詞の直説法現在を使った表現を重点的に学習する。また、CD・DVDなども使い、スペイン語圏の文化や生活にも触れていく。	
		スペイン語ⅢＢ	スペイン語II Bに引き続き、スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力の向上を目標とする。特に、動詞の直説法点過去を使った表現を重点的に学習する。また、CD・DVDなども使い、スペイン語圏の文化や生活にも触れていく。	
		スペイン語ⅣＢ	スペイン語III Bに引き続き、スペイン語の読み・書き・会話の基本的な力のさらなる向上を目標とする。動詞は直説法線過去・現在完了、接続法現在まで勉強し、自分の経験を書き、語れるようになることを目指す。また、CD・DVDなども使い、スペイン語圏の文化や生活にも触れていく。	
		中国語ＩＡ	隣国である中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的な躍進、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博開催などによって、中国や中国語にに対する関心が高まっている。この科目はネイティブ教員によって行われ、日本語とは全く異なる中国語の発音の基礎を丁寧に学び、標準的な中国語で「話す」、「聞く」といった基本的なコミュニケーション能力の習得を目標とする会話を中心とした授業である。	
		中国語ⅡＡ	隣国である中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的な躍進、2008年の北京オリンピック、2010年の上海万博開催などによって、中国や中国語にに対する関心が高まっている。この科目はネイティブ教員によって行われ、中国語ＩAで学んだ中国語の基礎の上に、標準的な中国語で「話す」、「聞く」といったコミュニケーション能力を豊かにし、さらに高めていくことを目標とする会話を中心とした授業である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	外国語科目	中国語ⅢＡ	隣国である中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。この科目は異文化交流の場面を念頭におきながら、中国語で自らの情報を発信し、また中国語で必要な情報収集をすることができるような能力の養成を目指す。授業はネイティブ教員によって行われ、場面に応じた「聞く」「話す」練習を繰り返し行い、使える中国語へのレベルアップをはかる。また、随時現代中国のトピックスなどを紹介しながら、日中を取りまく社会、文化状況への理解を深めていく。	
		中国語ⅣＡ	隣国である中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。この科目は異文化交流の場面を念頭におきながら、中国語ⅢAで身につけた中国語力をもとに、さらに中国語で情報発信する力、中国語で情報収集する力を高めていくことを目指す。授業はネイティブ教員によって行われ、場面や状況に応じた「聞く」「話す」練習を繰り返し行い、様々な場面で使える中国語へのレベルアップをはかる。また、随時現代中国のトピックスなどを紹介しながら、日中を取りまく社会、文化状況への理解を深めていく。	
		中国語ⅠＢ	日本と中国は、歴史的、地理的、文化的関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進、北京オリンピック、上海万博開催などによって、中国に対する関心が高まるにつれ中国語学習者も増えている。中国は日本と同様に漢字文化圏であることから、中国語は日本人にとって親しみやすい言葉である一方、間違った用法で誤解を生むことも少なくない。この授業では中国語と日本語の発想の相違点に触れながら、中国語の基本文法を学ぶ。	
		中国語ⅡＢ	日本と中国は、歴史的、地理的、文化的に関わりが深い。中国は日本と同様に漢字文化圏であることから、中国語は日本人にとって親しみやすい言葉ではあるが、外国語であるため文法も異なり、同形異義語も多く、学習が進むにつれて注意すべき点も多くなってくる。この授業では、中国語ⅠBで学んだ基本文法に加え、中国語の文法構造や音韻などにも触れながら、中国語の「読み」「書き」の基本を身につけることを目指す。	
		中国語ⅢＢ	この授業では、中国語ⅡBまでに習得した基礎中国語文法を中心とした中国語から、異文化交流を念頭に置き、コミュニケーションの道具、手段として使える中国語へとレベルアップをはかることを目指す。そのため、基本語彙に加えてコミュニケーションに必要な語彙を学び、「読む」・「書く」力を強化するとともに、音声教材も取り入れながら「話す」・「聞く」力もバランスよく伸ばしていく。また、随時現代中国のトピックスなどを紹介しながら、日中を取りまく社会、文化状況への理解を深めていく。	
		中国語ⅣＢ	この授業では、中国語ⅢＢまでに習得した中国語文法や簡単な会話を中心とした中国語から、さらに一歩進んだコミュニケーションの道具、手段として使える中国語へとレベルアップをはかることを目指す。インターネットを利用した中国語での情報発信、情報収集も視野に入れ、「読む」・「書く」力の一層の強化を図るとともに、音声教材も取り入れながら「話す」・「聞く」力の強化も図る。また、随時現代中国のトピックスなどを紹介しながら、日中を取りまく社会、文化状況への理解をも深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報科目	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ	本授業は、高度情報社会における情報収集やその処理の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、諸々の検定を指標としたレベル設定（ビジネスの現場において基礎的な文書処理ができる程度）を行い、実技演習を中心としながら授業を進めていく。本授業では、文書作成、簡単なレイアウト作成、表作成、表計算、簡単な図を描く技能を必要とする基本的なビジネス文書作成練習を繰返して練習する。	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ	現代社会においては、インターネットによる情報発信が活発に行われるようになっており、またそれらの情報は、ワープロ文書と同じような美しさで表現されるようになってきた。本授業では、ホームページにおける文章構造、スタイル付け等について、ワープロにおける文字書式・段落書式・テキストボックスなどの文書構造・スタイル設定と比較対照しながら勉強、修得することを目的とする。	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅲ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、WORDの高度な活用法の基本を学び、「Microsoft Office Specialist（旧MOUS試験）」エキスパートレベルに登場する技術レベルの演習を行う予定である。受講にあたっては、基本的な情報処理能力を有することが求められる。	
		ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅳ	本授業の目標は、「コンピュータ演習Ⅰ」で身に付けたスキル（ビジネスの現場において基礎的な文書処理が行える程度）を確認しつつ、さらに発展させることにある。具体的には、EXCELの高度な活用法を学び、「Microsoft Office Specialist（旧MOUS試験）」エキスパートレベルに登場する技術レベルの演習を行う予定である。受講にあたっては、基本的な情報処理能力を有することが求められる。	
	就業力育成科目	言語表現演習Ⅰ	人びとがコミュニケーションで繋がるのは、同じ言語を共有しているからである。しかし、人によって言語の運用能力は異なる。諸姉が幼稚園児の言葉に未熟さを感じるのと同じように、運用能力には価値判断が伴う。本授業は、大学生に求められる言語表現とは何かを、慣用表現、象徴的表現、語彙を中心に練習していきたい。自身の言語運用能力を高めながら、社会人として必要な言語に関する知識の向上を試みる。	
		言語表現演習Ⅱ	言語表現演習Ⅰを受け、随筆、小説、論説、歌詞、和歌、俳句などの表現を題材に自身の言語運用能力を高めること、及び、これまでに培った日本語能力を活用して、日常生活で必要な各種の文章を作成する訓練を行うことが本授業のねらいである。文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、同時に、社会で通用する日本語が運用できるようにになることを最終的な目標としたい。	
		進路設計	経済のグローバル化にともない、これまで日本の経済を支えてきた産業構造や人口構成は、大きく変化し、就業形態や人生観も多様化している。本講義では、女性の「生き方」について「就業観」「生きがい」「子育て」などをとおして議論を進める。この作業をとおして、卒業後の就業にさいして「企業が求める人物像」と「個人の抱く社会人観」、「家族観」をつなぐ価値観を再編し、具体的に語ることのできる素養を身につけることをめざす。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	就業力育成科目	社会と教養演習A	大学を卒業し、社会人として胸を張って生活するには、大学の専門的な教育以外に「社会人基礎力」と呼ばれるような、生きていくうえで習得すべき知識・知見が求められる。本演習では、自分自身のイメージを描くことから始め、そのうえで、社会人として必要とされる最低限のコミュニケーション能力を身に付ける。そしてそれを実践可能とするための自己啓発、及びコミュニケーションスキルの訓練を行ってみたい。	
		社会と教養演習B	社会にはその集団が守るべき価値と規範があり、社会人あるいは企業人として個人が守るべきルールーやマナーがある。しかしそこでは個々人の個性を生かした対応も求めらる。本演習では身体技法を含めた基本的ビジネスマナーの習得と個性の発見を目指したい。具体的には、個性を重視しながらも、駒沢女子大学生としてふさわしい、建学の精神を踏まえた行動規範を学ぶことになる。	
		社会と教養演習C	本授業は、「社会と教養演習A」を踏まえ、社会に出るために必要とされる「社会人基礎力」をさらに養っていくことを目的とする。社会人として自立するためには、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が必要といわれる。毎回の授業では、これらの力を磨いていくための、実践的訓練を行う。特に、チームワーク作業における、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性、規律性を涵養することに力を注いでいきたい。	
		社会と教養演習D	本授業は、「社会と教養演習B」を踏まえ、社会人としての規範、とりわけ、道元禅師の禅を建学の精神とする本学ならではの身体技法とは何かを深く学んでいきたい。具体的には、社会での様々な現場でそれがどのように活かされるのかを教授したあと、想定シミュレーションや、学生の自主性を尊重したグループ学習、体験学習を行う。それにより、社会に出てはずかしくないだけの素養を身に付けてもらうことにする。	
		キャリアリテラシー	本授業は、労働の価値と本質を再考し、「生きること」「働くこと」の意味を考え、人生における職業選択、女性と職業、転職等について議論をする。そのうえで、女性として誇りをもって働くために、必要なこととは何かを再考してみたい。狭い視野にとらわれず、幅広い視点から職業の選択ができるよう、様々な事例を用意すると同時に、現場で働いている外部講師等の話を聞く機会も設けたい。	
	体育科目	ｽﾎﾟｰﾂⅠ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（今期はテニスとリラックスヨガ）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験してもらうことを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組んでもらうことが最大のねらいである。	
		ｽﾎﾟｰﾂⅡ	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目は、継続できる身体運動（今期はバドミントンとゆがみ修正体操）を選択しながら、健康志向への動機付けを図り、実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験してもらうことを目標とする。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組んでもらうことが最大のねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	特設科目	日本語ＲＩA	大学で授業を受けるために必要な日本語の総合力を身に付けることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という４技能の向上を図るが、特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点をおく。聞きやすくわかりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。	留学生・帰国生徒対象
		日本語ＲＩB	日本語習得のうち、「書く」ことに重点をおいて授業を進める。題材は身近なところから抽出し、その題材を通して、日本語能力を深めるようにする。文を書くことに慣れるようにするとともに、文を文法的に正しく表現できるような学習も行う。授業は、助詞や語句の使い方などの練習、及び文章作成を基本として進める。課題で提出したものは、その都度、問題点を指摘する形で各人にフィードバックして指導していきたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本語RⅡA	本授業は、「日本語ＲＩA」に引き続き、いろいろな文章を読むことを通して、日本語の基礎力を固めていくことを目的とする。また、各学生が、それぞれ興味のある読み物、記事を選んで精読し、発表し、他の学生と討議することで、積極的に学ぶ姿勢を養う。具体的には、あるトピックについて多様な意見を読みながら自分の意見をまとめる等の訓練を行う。同時に、文字・語彙・文法・読解の練習問題もこなしてみたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本語RⅡB	「日本語ＲＩB」に引き続き、言語表現の一つである「書く」ことに重点をおいた授業を進める。題材は社会的な分野（新聞や雑誌等の社会記事）に広げ、その題材を通して、日本語能力を深めるようにする。前期同様、授業は、文法的部分の学習、及び文章の作成を基本として進める。課題で提出したものは、その都度、問題点を指摘する形で各人にフィードバックして指導していきたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本語RⅢA	本授業は、総合的な日本語能力の向上を目指すが、特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点をおく。また、口頭要約表現や意見表明及び論理的に相手を説得する方法を身に付ける。具体的には、スピーチやディベイトの形態を通して訓練していきたい。さらに、毎回、教材の聞き取りを行い、スクリプトの作成とシャドーイング練習を課題とする。	留学生・帰国生徒対象
		日本語RⅢB	「日本語RⅡB」に引き続き、「書く」ことに重点をおいて授業を進める。ここでは、論理的な文章表現のための基礎的な学習を終えた後、「レポートや論文」を書くことに焦点をあてる。テーマに関する調査に始まり、序、目次の作成、本文執筆、まとめ等、具体的な流れに即して指導してきたい。文章を書くことに慣れるようにするとともに、文章の基となる文を正しく表現できる力も養っていく。	留学生・帰国生徒対象
		日本語RⅣA	日本語の総合力、とりわけ読解力の向上を目指し、日本の社会に関わる様々な文章を読むことを本授業の課題とする。正しく速く読み取り、その内容について妥当かどうかの判断をし、自分の意見形成ができるようになるまで訓練を行いたい。教材には新聞を用いる。序論・本論・結論を意識して読むことを再確認し、さらに、時間があれば、新聞記事について発表し討議する場も設けてみたい。	留学生・帰国生徒対象

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	特設科目	日本語RⅣB	「日本語RⅢB」を引き継ぎ、論理的な文章を書く訓練をすることが本授業の目標である。論理的な文章表現のための発展的部分の学習といえる。課題は、日本語学習の最終段階にふさわしく、各自の専攻する学科の専門分野から設定する。それぞれの課題に関する資料を集め、それを読み込み、まとめる作業を通じて、専門分野を深化させると同時に、これを日本語学習の集大成としたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本事情Ⅰ	本授業は、日本での普段の生活のなかで活用していけるような情報を紹介していくことを目的とする。まずは、乗り物や美術館・博物館を含めた都心の情報について詳しく触れ、そのあと、対象を全国に広げていく。特に、有名な地方都市に関してはなじみが薄いため、地域に分け、映像等を活用しながら解説を進めていく。そして最後に日常生活に役に立つ、食にかかわる日本の文化、習慣について触れてみたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本事情Ⅱ	本授業は、現代の日本事情について、具体的なトピックを通して認識を深めることを目的とする。対象とするのは、日本人の食と健康、生活習慣、日本の住宅事情、経済状況、就労問題、日本の年中行事、伝統文化、現代日本の文化等、あらゆる分野に及ぶ。特に、日本の年末年始の行事については詳しく触れ、できれば、「かるた」の実践等を通して日本の文化を楽しく学んでいきたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本事情Ⅲ	本授業は、グラフや統計資料を使いながら、日本の国土、気候、経済、社会について学ぶことを目的とする。単に知識を詰め込むのではなく、映像資料を用い、また学外見学活動を通じて、生の日本事情が学べるように配慮したい。各自、自国の状況との比較考察を課題とする。比較することによって、より一層の理解が促されることであろう。また書籍やインターネットなどで調べて発表する機械も設けるようにしたい。	留学生・帰国生徒対象
		日本事情Ⅳ	本授業は、留学生の就業問題を考慮に入れて、日本の産業や貿易に関して学ぶことを目的とする。具体的には、日本の農業・畜産業・林業・水産業の実態、また、日本の高度成長期における工業を中心とした産業の発展についてまとめてみたい。「日本事情Ⅲ」と同様に、自国との比較により一層の理解を深めていくこととする。また、インターネットなどで調べて発表することを課題とする。	留学生・帰国生徒対象

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	共通専門科目	基礎ｾﾞﾐⅠ	少人数クラスでの対話を通じて、大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごすかを考え、学生一人ひとりが自分の目的とテーマを発見する手助けをする。また、自分で考えること、本の読み方、講義の聞き方、意見発表の仕方をいっしょに考えさせる。	
		基礎ｾﾞﾐⅡ	2年次以降の研究テーマについての手掛かりを提供し、それぞれの関心に応じて選んだ材料について、資料へのアクセスの方法、収集、整理、分類の仕方を教授しながら、実際にレポートをさせ、問題点の指摘を通じてきめ細かい指導をする。	
		基礎ｾﾞﾐⅢ	心理学のさまざまな領域に関わる専門的なテーマについて理解を深め、専門ゼミを受講する準備段階として必要な知識習得を行う。各自が興味のあるテーマを選び、文献を探索して先行研究を読み、テーマに関するトピックスを取りまとめて発表する。こうした活動を通して、今後専門を深めていくにあたって明確な学習計画をたてるとともに、主体的に研究テーマを設定していく姿勢を身につけることが、本授業の目標である。	
		心理学の基礎Ⅰ	心理学は，観察・実験・調査等の方法によって一般法則の探求を推し進める基礎心理学と、基礎心理学の知見を活かして現実生活上の問題の解決や改善に寄与することを目指す応用心理学に大別されるが，本授業では前者を柱とした授業を行う。心理学の成立過程という歴史的視点と，ころろを理解するための感覚・知覚，学習，記憶，認知，情動といった基礎的な知識を教授する。それらを通じて，心理学を学ぶ意義を理解させる。	
		心理学の基礎Ⅱ	心理学の基礎Ⅰで学んだ基礎的知識を踏まえた上で，心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか，教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また，心理学の研究領域は学際的であり，隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため，必要な知識や心構えなどについても言及する。	
		心理学実験実習Ⅰ	心理学実験実習では、実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される感覚・知覚、学習、記憶、思考領域の基礎的実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	
		心理学実験実習Ⅱ	心理学実験実習Ⅰに引き続きⅡでは、実証的科学である心理学の実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容は、実験心理学として総称される学習、記憶、思考、社会、性格領域の基礎的実験であり、複数の実験課題を心理学実験室において行う。そして、問題（仮説）の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科	共通専門科目	心理学研究法Ⅰ	心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を解説する。本講義では、実験法、調査法、さらに近年日常生活の心理研究が注目される中多く用いられている観察法について、その方法論と手続きを解説する。次にそれぞれの手法が使われた具体的研究例を検討することにより、手法の利点や問題点を考察する。なお、研究によって得られた心理学データ(資料)の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きも論究する。	
		心理学研究法Ⅱ	心理学研究の重要なデータ分析方法のひとつである、質的研究法の入門授業である。質的研究法は、調査の際だけではなく、カウンセリングや心理療法などの実践活動の過程を分析するためにも必要である。本科目では、グラウンデッド・セオリー・アプローチ，テキスト解釈や現象学的アプローチ，エスノグラフィ，会話分析などの研究法の概説と研究例の紹介を通じて、質的研究法の基礎を理解する。また、実際に質的分析法を用いた課題の実施を通して、方法の習得を目指す。	
		心理学統計法Ⅰ	人間の心を研究対象とする心理学も実証的な科学の一領域として、観察・実験・調査などによって得られた実際の研究資料（観測データ）が必要であり、これに基づいて実証的に研究をすすめなければならない。本講義では、「観測データをどのように整理し、分析し、推論し、結論づけていくかに関する方法（統計法）」の習得を目的として、統計法習得のはじめの一歩を踏み出す学生用向けの内容を扱う。	
		心理学統計法Ⅱ	心理学の研究を進める上で必要とされる「データの処理と解析」の統計的理解を深めることが、本授業の目標である。まずコンピュータを使ったデータの入力・加工・統計処理を説明し、基礎計算量、カイ２乗検定、平均値の差の検定・分散分析、回帰分析など統計分析を解説する。基本的な統計的考え方を理解するとともに、各自が統計解析ソフトを使って確認することを望む。	
		文芸と心理	文芸とは、言語を媒介とした芸術の総称であるが、本講義では、ソフォクレスの『オイディプス王』に描かれる、いわゆるエディプス・コンプレクスの意味を、言語芸術作品である原作を通じて理解・確認することから始め、さらにいくつかの文学作品を題材として、文芸における種々の心理学的テーマを検証する。特に、フロイトとユングの心理学的アプローチを紹介しながら、童話における心理学的解釈のさまざまな手法を『グリム童話』の何篇かを実際に読み解き考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
目	共通専門科目	言葉と心理	（概要）ある一つの文を発話するには、必ず、心理が作用する。講義では、「社会言語学」,「ディスクール分析」,「語用論」,「相互作用の分析」,「言語心理学」などを手がかりに、「言葉と心理」について考察する。 （オムニバス方式／全１５回） （８　米金孝雄／８回）　話し手（発話者）と聞き手（受信者）の間には一定の儀礼的なディスクールが存在するとともに、他方では、発話者の使用する語彙（あなた、君、お前）や表現（謙譲語、尊敬語、俗語）、声の調子、抑揚や表情などが、両者の心的作用に多大な影響を及ぼすのである。講義では、「言語運用」に焦点を絞り、「言葉と心理」のメカニズムについて考察する。 （７　保坂律子／７回）私たちが意思疎通を行う上で、言葉は大切な手段である。しかし言葉で思いを表現する際、自分の意図が上手く相手に伝わらない場合がある。何故なら、同じ内容の発言であっても、言葉の受け止め方は聞き手の心理に左右されるからである。この授業では感謝と謝罪の言葉に焦点をあて、様々な実例から「言葉と心理」について考察する。	オムニバス方式
		心理学英語講読	心理学英語講読は、英語をとおして心理学を理解する能力を高めることをこと目的とする。このため次の心理学において基礎的なトッピクス（英文）を教材として講読演習を行う。「１．.Intro to background of psychology」、「２．Nature vs. Nurture、「３．Conditioning」、「４．The Developing Child」、「５．Language Development」、「６．Health, Mind and Behavior」、「７．Intellectual and Social Development」、「８．Personality, Adjustment and Stress」、「９．Defense Mechanisms」、10.Adolescence」、「11. Mental Disorders」、「12. Psychotherapies」、「13. The Life Cycle」、「14. Testing and Measurements」。	
		学外実習	３年次の夏季休暇中に，社会的活動団体や公的機関等の職場において，報酬を伴わない勤務実習を行う。インターンシップ的な活動であるが，就職活動の一環としてのインターンシップとは異なり，就職に直接結びつくものではない。実習体験を通して社会生活と職業生活の現場感覚を養い，自らの進路について意識を高め，今後の勉学意欲に結びつくことを目的とする。	共同担当
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	社会心理学Ⅰ	社会と個人、あるいは個人間の相互作用を解明する社会心理学の視点から、「社会化」の問題を解説し、「社会と個人との関係のあり方」について理解を高める。本講義では、「個人はどのような発達課題を経て社会化していくのか」、「社会化の過程にはどのような人間が関わっているのか」、「社会化が阻害されるとどのような問題が生じるのか」をテーマとし、その現象と、家族・学校・地域社会など社会と個人との関係のあり方について論究する。	
		社会心理学Ⅱ	この講義では、初対面の人の印象や偏見、友人や恋人など親しい人との関係の成立・維持・崩壊といった「他者」、学校や会社などの「組織」、うわさや流行などの集合現象である「集団」、東洋文化や西洋文化といった「文化」まで幅広い心理を対象にし、社会心理学の中でも、「他者」・「集団・組織」・「文化」の心理への関心と理解の幅を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	発達心理学Ⅰ	発達心理学Ⅰでは、フロイトやコールバーグの発達理論を参考にしつつ発達心理学的視点から、誕生から児童期に至る子供の心理過程について解説する。また講義のなかで、心理学者のジャン・ピアジェが指摘したように「成人の精神構造は子供のそれを基礎として発展的に構築される」ことを理解し、大人の内なる幼子との対話は、自分自身の精神をより深く理解することにつながることを学んでいく。	
		発達心理学Ⅱ	発達心理学Ⅱでは、青年期から成人期に焦点を当て、青年心理学の視点から、いわゆる流行現象やユースカルチャー、非行といった「若者の今日的な状況」問題を具体的に取り上げ、それらを心理学的に分析し理解する。とくに「青年期の延長」の問題についてその現象を解説するとともに、いわゆる「モラトリアム」の長期化と「一人前」意識の喪失は若年層だけでなく、中高年齢層の疎外感とも深くかかわっていることを考察していく。	
		犯罪心理学Ⅰ	非行は社会を映す鏡と言われるように社会状況と無縁ではない。子どもの発達、家族関係、学校や地域社会といった多様な要因が絡み合って非行は発生する。本講義では臨床心理学的な観点から発生のメカニズムや処遇を考えていくため、精神分析的視点（主に対象関係論，自己心理学）、認知行動論的視点等を学ぶ。また、地域社会、学校、仲間集団などとのかかわりなども視野に入れていく。	
		犯罪心理学Ⅱ	犯罪・非行に関する諸理論及び現状を概観し，非行や犯罪についての理解を深める。その上で，性犯罪，薬物犯罪，女性の犯罪，高齢の者犯罪などを取り上げ，具体的に考察していく。また，犯罪被害者の支援，裁判員制度などの新しい流れについても触れる。さらに、米国やカナダの司法制度や実証的な研究に基づくアセスメントと介入といった実践（evidence based practice）についても紹介する	
		認知心理学	人間の認知機能の解明を目指す認知心理学について、その歴史的背景から成立、さらに現代までの発展を概観し、その方法論的特徴を講義する。次に、人間の主要な認知機能である視覚、記憶、学習、問題解決、思考等をテーマとした代表的研究について論究し、認知心理学的アプローチにより新しく解明された事実と、事実から構成された人間の認知機能に関するモデルについて考察する。また、実社会への応用例として、教育場面、産業場面での実例を示し、認知心理学的知見がどのように実社会に具体化され、生かされているかを検討し、今後の応用可能性について考察する。	
		家族心理学	非婚化、少子高齢化、離婚の増加、家庭内暴力、児童虐待など諸問題を抱えている現代の家族の形態、機能、役割について理解を深める。こうした理解を踏まえて家庭構成員の発達課題及び家族内の人間関係や社会とのかかわりについて、家族ライフサイクルとの関連で考察する。また、離婚や家庭内暴力、虐待などの家族内の人間関係における葛藤を理解し、そうした諸問題への援助方法について学ぶ。	
		教育心理学	教育心理学の知見に基づき、教授・学習場面を理解し、個に応じた教育を考える能力を高めることを目的とする。本講義では、学習意欲、動機づけ、学習行動、知識獲得、問題解決過程、自己学習力、授業と学級のはたらき、測定と評価などをとりあげる。また、教師の生徒理解の上では、子どもの心身の発達的特徴を知り、子どもの行動を理解することが必要である。授業の中で学習・発達・教授法などを具体例をあげて説明する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	健康心理学	本科目は、現代に生きる人々の健康の維持・増進や疾病の予防・治療、機能回復、健康管理システムなどの諸問題に対して、人のこころの健康的な側面に注目して考察することによって、健康心理学の基本知識と健康問題に関する見方・考え方を身につけることを目的とする。ストレスとストレスへの対処や、健康に対する価値観、態度、行動や健康回復・健康づくりへの支援について理解を深める。	
		コミュニティ心理学	コミュニティ心理学の目標は、人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解することである。まず、危機理論など、コミュニティ心理学的な問題理解のための理論を学ぶ。そして、コンサルテーションやコラボレーションなど、実際に問題を予防するための方法や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援など、さまざまなコミュニティの問題への支援方法について学んでいく。	
		スポーツ心理学	現代社会では、競技としてのスポーツをはじめとして、教育としてのスポーツ、心身の健康増進のためのスポーツ、レクリエーションとしてのスポーツ、スポーツ観戦など、すべての人々がスポーツとのかかわりを持っている。本科目の目標は、スポーツのパフォーマンスに心がどのように関わっているのか、スポーツをすることが人の心にどのような影響を与えるか理解することである。スポーツと心の健康の関係、メンタル面の競技への影響、チームワークなどについて学ぶ。	
		産業心理学	企業とそこで働く人々が抱えるさまざまな問題を心理学的に理解することを目標とする。また、心理学的方法を用いて、それらの問題を解決できるように援助する産業カウンセリングの方法について学ぶ。作業効率と安全、職業適性、モチベーションとリーダーシップ、メンタルヘルス対策、働く人たちのキャリア開発、職場におけるより良い人間関係や職場環境を作るための働きかけや援助など、実際の企業の取り組み例を踏まえて理解を深める。	
		消費者心理学	本科目では、消費者行動を心理学的に理解し、自らが「ユーザー側」として適切な消費行動を行うことと、「メーカー側」として消費者の心理を把握し、効果的にアピールする方法を身につけることを目標とする。消費者心理を捉えるマーケティングの方法、消費者心理に訴える商品企画とプレゼンテーションの手法、広告が消費者に与える心理的影響、接客サービスにおける効果的なコミュニケーションの方法、などについて学ぶ。	
		社会福祉援助論	本科目は、臨床心理学的援助と社会福祉学的援助の近接領域について学ぶ。発達障害・適応障害・心身症など、生物的・心理的・社会的に重複した問題を抱える人々に対して、心理学的に支援すると同時に、適切な社会的資源や医療的援助を導入して、対象者の生活の質を向上させていくサポートのあり方を学ぶ。また、精神障害者・身体障害者のリハビリテーションや児童福祉臨床の現状と課題について、実際の取り組み例を交えて学び、理解を深める。	
		高齢者心理学	中年期以降の高齢者の心理を学ぶ。加齢にともなう生理的な変化や心理的な変化について学び，高齢期における社会的な生活環境や典型的なライフイベントが与える影響などを考慮しながら，高齢期をいかに豊かに生きるかということを考える。また，認知症など高齢期に顕著な精神的な疾患を学び，その心理的・社会的サポートのあり方について理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	対人援助論Ⅰ	本講義は、自律訓練法などの理論と実践を通して、セルフコントロールやリラクゼーションについて学び、円滑な対人関係を築く能力や援助していく基本的な姿勢を身につけることを目標とする。まず、自律訓練法というリラクセーション法が成立した背景と、理論について学ぶ。実際に自律訓練法の初歩の段階を練習することによって、この方法のもたらすリラクセーション効果やセルフコントロール感の向上を体験する。	
		対人援助論Ⅱ	本講義では集団レベルの介入（グループ・アプローチ）の理論と技法の基本を学ぶことを目標とする。グループ・アプローチの定義や歴史、特色、適用と現代的意義、そしてグループ・アプローチの諸理論（精神分析的集団精神療法、心理劇、Ｔグループ、エンカウンター・グループ等）などについて学ぶ。さらに、グループ・アプローチの実際（企業でのグループ、不登校児の親のグループ、不妊に悩む女性のグループ、アダルト・チルドレンのグループ、性的虐待を受けた人のグループ、がん患者のグループ等）について学ぶ。	
		現代心理学実習	本科目の目的は、社会的な活動には不可欠なコミュニケーション能力や異なる立場の人たちと連携をとっていくコラボレーションの能力を習得することである。研究対象のフィールドに自ら参加し、積極的にコミュニケートすることによって、必要な情報を収集したり、得られた情報を役立つ形でフィードバックしていくために、どのような姿勢や技法が必要であるのか、体験的に習得する。	
		現代心理学ｾﾞﾐＡⅠ	家族と個人を取り巻く諸問題（非行，虐待，ＤＶ，離婚，老人扶養など）について，臨床心理学を柱にすえて，社会学，精神医学等の知見も参考にしつつ，その理解と援助方法について考察を進めていく。研究方法の基礎を身につけ，卒論，ゼミ論に向けての準備期間でもある。Ⅰでは専門書を読みこなし，まとめていく力を身につけながら，個人や家族について発達的な視点，力動的な視点，社会との関係性の視点といった基礎的理論の習得を目指す。	
		現代心理学ｾﾞﾐＡⅡ	現代心理学ゼミＡⅠ」に続いて，家族と個人を取り巻く諸問題（非行，虐待，ＤＶ，離婚，老人扶養など）について，臨床心理学を柱にすえ，社会学，精神医学等も参考にしつつ，その理解と援助方法について考察を進めていく。研究方法の基本を身につけるとともに，受講生が関連あるテーマを選択し，そのテーマが抱える問題の分析や援助方法についてグループで研究・発表する。研究方法の基礎を身につけ，卒論，ゼミ論に向けての助走期間でもある	
		現代心理学ｾﾞﾐＡⅢ	家族と個人を取り巻くさまざまな問題について考察を進めるが，最終的には各自が関心を持ったテーマでゼミ論若しくは卒論として，その成果をまとめられることが目標である。Ⅲでは，文献を購読し，家族に関する問題意識と理解を深めると共に，各自が，テーマを定めて，調査研究を行う準備を進める。研究計画とその方法論を検討していく中で，討議する力，与えられた時間で発表する力も併せて身につけていく。	
		現代心理学ｾﾞﾐＡⅣ	現代心理学ゼミＡⅢにおける家族と個人を取り巻く諸問題の考察を進めるとともに、各自が決めたテーマに沿って調査研究を行い、ゼミ論又は卒論としてまとめる。さらには、その成果を発表し、４年間の集大成とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	現代心理学ｾﾞﾐＢⅠ	現代心理学ゼミＢⅠは、認知心理学とその応用研究について学ぶ。とくに以下２つのテーマについて、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。演習テーマ　１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）　２．「言葉の使用とその認知機能について」	
		現代心理学ｾﾞﾐＢⅡ	現代心理学ゼミＢⅡは、認知心理学とその応用研究について学ぶ。とくに以下２つのテーマについて、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。演習テーマ　１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）　２．「言葉の使用とその認知機能について」	
		現代心理学ｾﾞﾐＢⅢ	現代心理学ゼミＢⅡに引き続き、２つのテーマ（１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と２．「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。とくにⅢの後半では、各自が研究計画を立て、研究を実施して、それぞれの発表・討論を行っていく。	
		現代心理学ｾﾞﾐＢⅣ	現代心理学ゼミＢⅢに引き続き、２つのテーマ（１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と２．「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献購読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。各自が研究計画を立て、研究を実施して、それぞれの発表・討論を行っていく。	
		現代心理学ｾﾞﾐＣⅠ	臨床心理の現場では，クライエントと対話しながら問題状況を明らかにし，問題の解決に向けた介入を行う。３年前期では,様々な研究法のうち、まず「事例研究法」を取り上げ、①事例研究法の基礎知識を習得すること、②事例研究を読むことによって，実践活動の実際を知ること，の2点を目標とする。事例研究のテーマはさまざまであるが、ゼミ生の興味関心に合わせて事例を選択する予定である。	
		現代心理学ｾﾞﾐＣⅡ	３年後期では,研究法のうち,「調査面接法」「観察法」「質問紙法」を取り上げ、①それぞれの研究法の基礎知識を得、②実践を通して，研究法を習得し、すること、を目標とする。臨床心理学の研究法と研究領域は幅広いが、実践により研究方法を身につけながら、テーマへの関心を深めていくことがねらいである。	
		現代心理学ｾﾞﾐＣⅢ	４年前期では，研究を行う準備として，①自分の問題意識に基づいて先行研究を調べ，②先行研究の動向や重要な知見を知り，課題を設定すること，を目標とする。先行研究をふまえて自分の関心を研究に移した場合の意味や意義，位置づけを考え，課題への理解を深めると同時に，課題を設定していくことがねらいである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	現代心理学コース専門科目	現代心理学ｾﾞﾐCⅣ	４年後期では，前期に立てた研究計画に基づき，実際にデータを取って，結果をまとめ発表することによって，①調査の実施方法や分析・考察の仕方に理解を深め、②発表や質疑応答をとおして，人に自分の考えや立場を表現することを目標とする。このような活動を通して，心理学的なものの見方や，論拠に基づいてディスカッションする力を身につけていくことがねらいである。	
		現代心理学ｾﾞﾐＤⅠ	私たち人間は、誕生直後からめまぐるしい変化に満ちた環境に適応し、社会的な存在として他者とコミュニケーションをとりながら、高度な身体的・認知的スキルを発達させていく。現代心理学ゼミＤⅠでは、こうした「発達」を駆動している基盤について、発達心理学、認知心理学、そして新しい理論的立場である生態心理学という領域を横断しながら学習する。卒業論文のテーマ設定にも役立てられるように、幅広い視野から心理学の現代的な意義とその方法について理解を深める。	
		現代心理学ｾﾞﾐＤⅡ	現代心理学ゼミＤⅠで取り上げた人間の身体的・認知的スキルの発達に関するさまざまなトピックのなかから、学生各自で興味や関心があるものを選択し、関連する論文の講読、レポートの作成、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。こうした実践的な作業を通して、自ら問題を調査・探求し、その内容を的確に表現する能力を身に付けることを目標とする。	
		現代心理学ｾﾞﾐＤⅢ	人間の身体的・認知的スキルの発達に関する理論・研究およびその方法を確実に理解することを目標にする一方、現代心理学ゼミＤⅢでは、卒業論文の執筆を見据えた具体的な準備も進めていく。人間の発達に関するテーマは多岐にわたり、実はそれが日常生活の中にふと見出されることもある。そこで学生各自が研究対象にできそうな事例やトピックを身近なところで探し出し、そのアイディアについてディスカッションをしながら、その事例に対してどのような心理学的アプローチが可能なのかを考察していく。	
		現代心理学ｾﾞﾐＤⅣ	現代心理学ゼミＤⅢで学習した理論的な枠組みと、学生各自が関心を抱いている研究テーマとの接点を改めて精査する。研究テーマに沿った実験・観察・分析を進め、卒業論文を執筆し、その内容についてプレゼンテーションを行う。学生が主体性を持って取り組むようにし、大学生活における学術的活動の成果をしっかりとした形にすることを目標とする。	
		卒業論文	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学の基礎として，人の心の構造や機能に関する理論を学ぶ。日常生活で何気なくやり過ごしている些細な失敗などの錯誤行為や睡眠時に見る夢，昔話や小説といった文学作品に描かれている人物像などの具体的な素材を題材にして，人の心の中では意識的に制御している合理的な領域と無意識的に働いている非合理的な領域が相互作用しているという力動的な見方を理解するのが目的である。あわせてS.フロイトやC.G.ユングなどの力動的心理学の創始者たちが人の心をどのように考えていたのか，その歴史的意義についても学ぶ。	
		臨床心理学Ⅱ	臨床心理学の基礎として，人の心の構造や機能に関する理論を学ぶ。後期の臨床心理学Ⅱでは、人の心や行動の問題を理解する理論として、①個人の認知と行動の特徴から理解する認知行動理論、②個人と家族や周囲の人間との対人関係との関係の観点から理解するシステム理論、③個人の所属するコミュニティや環境との関係の観点から理解するコミュニティ・アプローチ、の３つを取り上げる。それぞれの理論の歴史的背景と基本的モデルについて理解を深めることを目的とする。	
		人格心理学Ⅰ	人間理解の基礎となる、人格心理学の諸理論について学ぶ。パーソナリティとはどのような概念か、パーソナリティを捉える視点としての類型論と特性論の特徴、パーソナリティの測定法、パーソナリティの発達、対人関係とパーソナリティ、文化や社会のパーソナリティへの影響など、さまざまな角度からパーソナリティの成り立ちを理解する。また、臨床心理学的援助の基礎となる、精神分析等の人格構造論についても学ぶ。	
		人格心理学Ⅱ	本講義では，こころの病やこころの発達の障害について理解を進め，基礎知識を得ることを目的とする。また，こころの病を抱えた方への関わりという点から人間関係の影響について，理解を深める。実際に，傾聴やアサーションの実践を行い，良好な人間関係を築くための心理学的な基礎知識と実践力を身につける。	
		心理検査法Ⅰ	本講義では，心理検査法の基礎と心理検査法を利用するにあたって必要とされる種々の知識を学ぶ。また、心理検査法の歴史，目的，種類について学ぶとともに，特に質問紙法を中心に、統計的技法の基礎，心理検査法の作成・標準化過程についても学び、客観的、実証的に心理検査法 を活用する姿勢を身につけることを目的とする。	
		心理検査法Ⅱ	本講義では、さまざまな心理検査法の中から、投映法を中心に、知能検査・発達検査などについて詳しい説明を行う。臨床心理学の領域では、パーソナリティのアセスメントが重要になる。心理検査を通して精神状態を査定し行動を分析してパーソナリティをアセスメントしていく方法について学ぶ。さらに，検査法を心理学研究法の一つとして用いる方法についても学んでいく。	
		精神医学	統合失調症やうつ病などの気分障害，あるいは神経症と呼ばれていた種々の身体症状や不安症状，また人格障害など，精神医学が対象とする疾患の歴史的な変遷から現在もっとも多く使われている診断マニュアルであるDSMまでを総括的に学ぶ。主だった疾患の状態像を知り，鑑別のための基本的な視点を身につける。また，治療について，抗精神病薬や抗うつ薬，抗不安薬など精神科で使われている薬物についての基本的な理解を得ると同時に，薬物療法以外の精神科における治療的な関与について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	学校心理学	スクールカウンセリングに代表される、教育の分野における臨床心理学について学ぶ。学校というコミュニティの制度や組織の特徴、関連する法律、風土や文化など、児童・生徒を取り巻く環境について理解する。また、児童期・思春期の心理的発達と臨床的に生じやすい問題について理解する。そして、不登校やいじめなどの、実際に起こっている問題への対応法について、事例を交えて具体的に考察し、理解を深める。	
		医療心理学	医療の分野において、患者の心理を理解し、異職種や家族と協力しながら患者を支援するための臨床心理学的知識を学ぶことを目標とする。まず、身体の健康と心の関係について、健康心理学の観点から学び、慢性疾患や成人病、依存症などの治療における心理学的アプローチの重要性を理解する。また、気分障害や統合失調症、不安障害に代表されるような各種の精神疾患の特徴と、それらの心理学的な査定方法と援助方法の基礎についても、事例を通じて学ぶ。	
		カウンセリング論	心の悩みを解決するカウンセリングの方法にはいろいろな立場があるが、ここではロジャーズによる来談者中心療法について詳しく論じる．教育現場における問題や家庭の親子関係などにおける問題の事例及び学校カウンセリングとしての対処方法について検討する．また、自我が自立していく過程で生じる問題についての事例も紹介する。カウンセリング・マインドとはどのようなかかわりであるかについて理解がすすむことを期待して授業を展開する。	
		障害者援助論	身体障害者福祉を中心として基本資料および福祉制度を概説する。また自立生活運動，家族支援などのトピックスを紹介しながら近年のサービス提供・利用に関する動向に触れる。以下のテーマを取り上げる予定である。自立生活運動、介助論・ボランティア論、施設福祉と地域福祉、家族支援・生活支援、障害者文化と障害学、ユニバーサルデザイン、など。	
		精神病跡学	絵画や文学作品などを通して，当該作家の精神状態，とりわけ精神疾患の特徴について学ぶ。作品だけでなく伝記的な資料などをあわせて，作品だけなく多面的に見ることによって，その作家の生き方についての理解を深め，人間にとっての精神の病が持つ意味について考える機会を与える。また作品や資料からどのようなことが言えるのか，病蹟学的なアプローチを学ぶことによって，各自が任意の作家や作品について検討できるようになることも目標のひとつである。	
		神経心理学	本講義は、「こころ」をつくりだしている脳について生理学的理解を高めると共に、脳を解明する脳科学の現状を理解することを目的とする。授業では、「神経細胞と脳の構造」、「機能の局在」、「視覚と脳」、「言語と脳」、「記憶と脳」、「脳研究の現状」について説明を行う。また、臨床的な神経心理学の古典的研究である「分離脳患者の研究」、「失語症の研究」などについても説明し、言語に係わる最近のトピックスを紹介する。	
		言語心理学	人間と動物と分ける最も大きな違いは、その卓越した思考・言語能力に求められる。人は、考えることで、適応的な行動を選び、ことばを使って複雑な情報を伝達することができる。人はどのようにして考え、ことばを操ることができるのか、またそうした能力は、どのような性質を持ち、どのように発達するのか、といった言語能力のさまざまな側面について、認知心理学、発達心理学、動物心理学、神経心理学などの知見を交えながら、思考・言語の性質とその基盤についての理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	比較行動学	人間の行動を理解するために，動物の行動と比較しながら検討する。動物の進化や生態について学ぶことにより，動物の種としての人間が進化の過程における位置づけやその特殊性についての理解を深める。とりわけ言語の問題，自己意識の問題など，人間を他の動物から際立たせている側面について学ぶ。また，攻撃性についても動物との比較において学び，人間の攻撃性や道徳性などについて理解を深める。	
		発達臨床	乳幼児期から児童期にかけて子どもが示すさまざまな問題を発達の視点からとらえる。乳幼児における授乳・摂食障害や睡眠障害，排泄障害などの生活習慣上の諸問題について，その実態や生起メカニズムについて学ぶ。とりわけ母子のコミュニケーションの様相について焦点をあてて，良好な母子関係がどのようなものなのかということについて理解を深める。また，過度のしつけや虐待などの母子関係の問題についても学ぶ。	
		心理療法論Ⅰ	本科目は、認知行動療法の理論と臨床的援助の方法の基礎を学ぶことを目標とする。まず、認知行動理論の特色、認知行動理論が成立した歴史的背景や他の理論との違いについて学ぶ。次に、認知行動モデルについて学んだ上で、事例検討を通して、認知の変容が行動の変容を生じさせるという認知行動療法の実際を理解する。また、日誌法や認知再構成法などの、認知行動療法のさまざまな技法を自ら課題として実施してみることを通して、体験的にその有効性や限界について考察し、理解を深める。	
		心理療法論Ⅱ	精神分析の創始者S.フロイトの業績について学び，無意識についての理解を深める。人間の心を自我，エス，超自我という構造から成ると考え，心理的な問題をそれらの葛藤からとらえるという精神分析の基本的な理論を学ぶ。そして治療としての精神分析の設定とその目的について学び，具体的な症例を通してその意義を理解できるようにする。とりわけ転移という精神分析的な治療のもっとも特徴的な現象やその取り扱いについて，理解を深める。	
		臨床心理学実習	臨床心理実習の目標は、臨床心理学的援助の基本となる、コミュニケーション技法を習得することである。言語を用いた自己表現は、対人援助職のみならず、広く社会において必要とされる。また、相手の語りを聴く技術も、他者を理解し関係を築くための重要な能力である。本科目では、グループワーク、アサーション・トレーニング、ソーシャル・スキル・トレーニングなどを組み合わせながら、他者に自分を表現する技能と他者に耳を傾け理解するための技能を習得する。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＡⅠ	「買い物依存、パラサイトシングル、ニート、インターネット心中、携帯依存」など、シンドローム現象（症候群）をテーマとし、本質を考察し、人間のこころのありかたを現代風に取り上げ、グループでレポートを作成し、ゼミで発表する。さらに人の成長とコミュニケーションのとりかたなどの体験学習を深め、臨床心理学、発達心理学、精神医学、社会臨床学の視点から、人間のこころの成熟と個人発達課題、および社会の役割について理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＡⅡ	心理療法の導入として、催眠療法への導入、イメージ誘導などの演習を行なう。さらにイメージを今、ここ療法に拡げていくために、ゲシュタルト療法の基礎理解や基礎ワーク（台所用品）を理解し体験していく。自己開示と自己理解をさらに深めて自己療法、自己支えへと展開していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	臨床心理学ｾﾞﾐAⅢ	いろいろな心理療法をグループでレポート作成し、ゼミで発表する。また、その心理療法の技法をゼミで実施する。他に、動作法や催眠療法をさらに深めて、心身を弛め効果的な機能の促進をはかる。 特に催眠では年齢退行やキャンバスイメージ、深海イメージなどを深めて、心的治療に橋渡しする技術を習得する。またイメージを拡げて、芸術療法にも展開し、特に象徴の理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐAⅣ	実存主義的現象学的方法を掘り下げ、リスナーとの協力によるゲシュタルト療法を中級にまで深める。ゲシュタルト療法における記述的方法、相反するものとの統合、チェアワーク、エンプティーチェアワークを用いてボディメッセージを深める体験をする。観察と想像、見えと判断などの認知を深め、ワイズマンや海の女神などを体験して、影とペルソナを統合していく気づきの過程（セルフ・サポート）を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐBⅠ	学術論文や各省庁が出している資料などを用いて、メンタルヘルスの対象となっているテーマをゼミで手分けして調べる。この場合のメンタルヘルスは、狭義の「精神保健」でも広義の「心の健康」でもよい。調べたテーマについて、まずはその実態を把握し、今、そのテーマについては何が問題となっているのか、それはどの程度の数が生じているのか、どんな支援策がとられているのかなど、理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐBⅡ	臨床心理学ゼミBⅠで調べた内容をもとに、グループごとにメンタルヘルスに関わるテーマを1つ選び、そのテーマに潜む問題を参加型グループワークにより抽出する。次に、その問題を解決するための方略を自分たちなりに検討し、そのうえで、臨床心理の立場からはそこにどのように関われるかを考えてみる。最終成果物については、PowerPointを用いたグループ発表会を行う。	
		臨床心理学ｾﾞﾐBⅢ	文献のクリティカル・リーディングについて数回の演習を行った後、具体的な研究計画を立て、ゼミ論文・卒業論文の準備に取りかかる。取り上げるテーマは、メンタルヘルスに関わるものであれば、基本的に自由である。研究目的を書くときは、できるだけ具体的に焦点を絞り、何を明らかにしたいのかを明確にしておくことが、良い研究を導く。目的が漠然としていると、話の筋がぼやっと広がって、ただ素材を並べ立てただけのような成果になってしまいがちである。よい研究プロトコルの立て方を身につけていく。	
		臨床心理学ｾﾞﾐBⅣ	臨床心理学ゼミBⅢで立てた研究計画に基づき、実際に研究を行う。研究の手法は、量的研究でも質的研究でもよい。研究の成果は、ゼミ論文・卒業論文としてまとめ上げる。最後は、PowerPointを用いた研究発表会で、自分の研究を他人にも分かるようにプレゼンテーションする。研究発表は、人が聞いて分かるものにすることが、聴き手に対しての誠意であり、かつ、科学としての公共性となる。	
		臨床心理学ｾﾞﾐCⅠ	本ゼミでは，無意識の働きについて学ぶことを主なる目的とする。そのために無意識に触れるいくつかのアプローチについて体験的に学んでいく。まず3年の前期では言語連想法を実際に施行し，その結果得られたデータを処理していく手順について学ぶ。数量化されたデータを比較していくことによって得られる理解と，質的に検討することによって仮定される解釈的な理解とを相補的に活用することの意義について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	臨床心理学ｾﾞﾐＣⅡ	3年後期では，精神分析の創始者S.フロイトと共同研究者であったJ.ブロイアーによる「ヒステリー研究」に載せられている症例を題材にして，無意識への治療的なアプローチがどのようになされてきたのか，その歴史的意義について学び，現代的な見方からはそれがどのように評価されるのかということについて学ぶ。また，実習的な学びとして心理学的な研究法としての観察法をグループに分かれて実施し，質的なデータを処理する方法としてKJ法について体験的に学ぶ。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＣⅢ	4年前期では，C.G.ユングのタイプ論を中心に学ぶ。タイプ論に基づいてつくられた質問紙を自ら行うことによって，自分のタイプを知る一方，ユングのタイプ論の理論的な理解を深めていく。これによって心理学的な研究法としての質問紙法の利点とその限界について，体験的に学ぶ。また，ユングの理論に基づいて発展してきた箱庭療法について体験的に実施することによって，箱庭という設定において無意識的なものがどのように形となるのかということについて理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＣⅣ	4年後期では，無意識に触れるアプローチの最後として，夢を題材としてとりあげる。自らの夢を記録する一方で，夢の解釈法について代表的な理論について学び，自分の夢を実際に解釈してみる。また，夢を利用した臨床事例などから，夢を活かしていく方法について学ぶ。また，描画法の一種であるスクイグルについて体験的に学び，無意識の相互作用について理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＤⅠ	本ゼミは、人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。特に、①心理的問題を、個人と個人を取り巻くさまざまなシステムとの関係によって生じるものとして統合的に理解する視点、②個人とシステムとの関係を視野に入れた心理的問題への援助方法、③個人やコミュニティの心理的問題を扱うための臨床心理学研究の方法、を学ぶことを目標とする。３年前期は、臨床心理学的地域援助の理論と臨床心理学研究の方法に関する文献の購読を行い、受講生による報告とディスカッションによって理解を深める。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＤⅡ	本ゼミは、人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。特に、①心理的問題を、個人と個人を取り巻くさまざまなシステムとの関係によって生じるものとして統合的に理解する視点、②個人とシステムとの関係を視野に入れた心理的問題への援助方法、③個人やコミュニティの心理的問題を扱うための臨床心理学研究の方法、を学ぶことを目標とする。３年後期は、受講生が各自関心のあるコミュニティを選択し、そのコミュニティにおける心理的問題と援助方法についてグループで研究・発表する。	
		臨床心理学ｾﾞﾐＤⅢ	本ゼミは、人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。特に、①心理的問題を、個人と個人を取り巻くさまざまなシステムとの関係によって生じるものとして統合的に理解する視点、②個人とシステムとの関係を視野に入れた心理的問題への援助方法、③個人やコミュニティの心理的問題を扱うための臨床心理学研究の方法、を学ぶことを目標とする。４年前期には、受講生が各自関心のあるコミュニティを選択し、そのコミュニティにおける心理的問題について調査を計画し、発表する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	臨床心理学コース専門科目	臨床心理学ｾﾞﾐDⅣ	本ゼミは、人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。特に、①心理的問題を、個人と個人を取り巻くさまざまなシステムとの関係によって生じるものとして統合的に理解する視点、②個人とシステムとの関係を視野に入れた心理的問題への援助方法、③個人やコミュニティの心理的問題を扱うための臨床心理学研究の方法、を学ぶことを目標とする。４年後期は、各自が関心を持つコミュニティの心理的問題について調査を実施し、その結果を発表する。	
		卒業論文	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と問題意識を明確にしつつ、適切な方法を用いて深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化して卒業論文としてまとめる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	生涯学習論Ⅰ	本授業は、生涯学習に興味を抱く学生、特に、学芸員資格や教員免許状を取得しようとする学生に対して、生涯学習及び社会教育の本質と意義、生涯学習の制度、専門的職員の役割等、生涯学習に関する基礎的・専門的な教養を身に付けさせることを目標とする。まず、生涯学習教育の概要から入り、社会教育の歴史、生涯学習の意義や特性、行政面からの理解へと話を進めていく。そして、最終的には、生涯学習の方法と内容に関して学ぶ。全体として、現在問題視されている側面を明らかにしつつ理解を深めていく。	
		博物館概論	現代社会において、教育・文化施設である博物館の果たす役割は大きい。本授業は、博物館に関する基礎的知識を習得することを目的とする。生涯学習社会へと移行する中で、博物館の基本を身に付け、博物館に課された役割について考えることで、専門への導入教育としたい。具体的には、博物館について、存在意義にかかわる本質的な問題、歴史的な歩み、現状と課題、といった観点から概要を説明したあと、国内外の博物館の事例を紹介する。現実的な立場から博物館が理解できるように授業を進めていく。	
		博物館経営論	本授業は、博物館の使命と組織形態、及び実際の管理運営の方法について、具体的事例を通して学び、博物館を経営すること（ミュージアム・マネジメント）の基礎的能力を養うことを目的とする。具体的には、博物館経営の基盤となる、博物館行政制度、博物館の財務、施設設備、組織と職員等について学んだあと、博物館経営の使命と評価、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館等、博物館経営の実際について、見学を含めた授業を行う。	
		博物館資料論	本授業は、博物館資料の収集、整理保管、情報管理の方法等、理論と知識を含めた、資料に対する基本的な能力を養うことを目標とする。合わせて、考古・民族・美術・歴史・自然史資料等、具体的な資料の特性に即しながら、資料の取り扱いの実際について学んでいく。具体的には、博物館資料に対する基本的な考え方を講じたあと、資料の収集・整理・活用、一次資料と二次資料、デジタル資料等について解説する。また、博物館では調査研究活動がいかに行われているのか、具体例をあげながら説明する。	
		博物館資料保存論	本授業は、博物館における資料保存の基本を講じることを目的とする。展示環境、収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で次の世代に引き継いでいくための知識を習得することで、資料の保存が、博物館の文化活動においていかに大切なことかを学ぶ。具体的には、資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境、環境保護と博物館の役割等について講じる。具体的な施設調査を踏まえながら、資料保存の問題について総合的に考えていきたい。	
		博物館展示論	本授業は、歴史的観点、意味論（教育論）的観点から博物館の展示について解説し、また具体的事例、あるいは特定の展示を想定しながら展示の組み立て方やデザインの仕方等を講じることで、博物館展示の基本を学ぶことを目的とする。具体的には、博物館の展示が社会的にどのような意味を持つのか、展示の意義や実態を一般論として学んだあと、展示資料の分類、展示資料の選定、展示の設計、配置計画、導線計画、解説パネル文章作成、広報手段等、展示全般を想定した講義をする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	省令必修科目	博物館教育論	本授業は、博物館における教育活動の重要性を理解させることをねらいとする。授業では、具体的な事例を示しながら、教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館教育に関する基礎的な能力が身に付くよう配慮する。また、博物館教育の理論的側面として、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場等の視点から解説する。最後に、博物館の利用と学びの実際について、心理的効果、教育的効果、教育活動等の内容を事例をあげながら話をしたい。	
		博物館情報・メディア論	本授業は、博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について、ソフト面、ハード面ともに理解し、博物館の情報提供と活用に関する基礎的能力を養うことをねらいとする。具体的には、博物館における情報・メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館におけるデジタル情報発信の基本をネット実習等を交えて教授する。さらに、著作権や個人情報等、博物館の知的財産に関しての理解を深める。	
		博物館実習Ａ	博物館実習Aは、博物館・美術館を見て回ることで、現場に触れ、最終年次で課される展覧会の企画・開催に向けて、客観的な視野を構築することを目的とする。参加者は、複数の博物館・美術館を見学したうえでレポートを作成し、授業内でそれについての発表を行う。学生各自がさまざまな分野の博物館・美術館を見学することで、博物館・美術館の実態や展示の仕方を学び、また企画意図等に関して学芸員の話を直接聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものか、理解を深める。	
		博物館実習Ｂ	博物館実習Bは、博物館・美術館を見て回ることで、現場に触れ、最終年次で課される展覧会の企画・開催に向けて、客観的な視野を構築することを目的とする。参加者は、複数の博物館・美術館を見学したうえでレポートを作成し、授業内でそれについての発表を行う。学生各自がひとつのテーマを定め、そのテーマに沿って複数の博物館・美術館等を見学する。そして、当該テーマに関して、どのような企画がなされているのか、どのような展示形態がとられているのか、特定の主題のもとでの博物館展示に関して、多角的に学習する。	
		博物館実習Ｃ	本授業は、資料の取り扱い等、展示業務の実際の基礎を学んだあと、参加学生が企画検討した展示計画案を基にして現実的な展覧会に仕上げることを目標に置く。そして最終的には、学園祭を利用してこの展覧会を「博物館学実習館」で公開する。学生は、「調査・研究班」「広報・記録班」「展示デザイン班」「グラフィックデザイン班」等に分かれ、参加者が一丸となって、実際の企画展示と同じ体験を行うことになる。本科目には、7日間（1単位相当以上）の館園実習、及び学内実習（実務実習、事前・事後指導）が含まれる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	世界のミュージアム	本授業は、ヨーロッパとアメリカの著名なミュージアムの成立過程、経営方法、展示の特徴、収蔵品等を紹介することで、日本以外の諸国における博物館の実態を学習することを目的とする。具体的には、フランス、イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、オーストリア、アメリカ諸国の著名な博物館の実態を、映像資料を用いながら解説する。次に、収蔵品のなかからよく知られたものを選び、その文化的価値について詳細な検討を加え、作品の魅力を探ることにしたい。 （オムニバス方式／全１５回） （１７　藤田啓子／６回）　フランス、イギリス、イタリアの美術館・博物館を紹介し、著名な所蔵品について美術史の観点から講義する。 （１４　羽鳥修／３回）　ボストン、ニューヨーク、ワシントンDCを中心にアメリカ合衆国の美術館・博物館を紹介し、その歴史的背景も探る。 （２１　加藤ナツ子／３回）　マドリード、バルセロナその他の美術館・博物館を紹介し、同時にその背景となるスペインの文化を講義する。 （５　糟谷惠次／３回）　ドイツ（ベルリン）、オーストリア（ウィーン）の美術館・博物館を紹介し、ドイツ語圏の文化に触れる。	オムニバス方式
		日本のミュージアム	本授業は、日本各地の著名なミュージアムの成立過程、経営方法、展示の特徴、収蔵品等を紹介することで、博物館に関する基本的な知識を増やしていくことを目的とする。日本各地の博物館の実態を学びながら、同時に、地域文化や地域社会に即した博物館の有り様も検討してみたい。具体的には、首都圏以下、北海道から沖縄まで、日本各地の博物館の実態を、映像資料を用いながら解説し、その文化的価値について詳細な検討を加え、作品の魅力を探ることにしたい。	
		西洋文化史	本授業は、古代・中世のヨーロッパ文化の特質と流れを概観することを目標とする。手紙、装飾品から日常の必需品に至るまで、多岐にわたるモノを通して、ヨーロッパ各地の人々の生活と考え方を知り、各時代の文化を学び取っていきたい。時代は、ギリシア・ローマの文化に代表される古代世界、騎士・農民・都市の文化が栄え、ヨーロッパ文化の基層を形成した中世、その結実としてのルネサンスの文化までを扱う。科目の性格上、ビデオやスライドを多用して講義を進めていく。	
		西洋美術の旅Ⅰ	本授業は、古代からルネサンスまでの西洋美術の流れを概観しながら、各時代と各地の特徴をとらえることを目標に置く。また、作品の鑑賞等を行うことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する目を養いたい。西洋美術を鑑賞するにあたって欠かすことのできない地域を複数選び、それぞれの土地で誕生した美術を、スライドやビデオを多用しながら解説する。エジプト、エーゲ海、地中海、イタリアの諸都市を旅する気持ちで授業を進めていく。	
		西洋美術の旅Ⅱ	本授業は、17世紀から20世紀までの西洋美術の流れを概観しながら、各時代と各地の特徴をとらえることを目標に置く。また、作品の鑑賞等を行うことによって、西洋美術の様式的な特質と画家や彫刻家たちの個性を探求する目を養いたい。西洋美術を鑑賞するにあたって欠かすことのできない地域を複数選び、それぞれの土地で誕生した美術を、スライドやビデオを多用しながら解説する。フランスを中心とした、ヨーロッパの各地を旅する気持ちで授業を進めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	基礎選択必修科目	日本美術史入門	本講義は、日本の美術を、仏像を中心に概観することを目的とする。特に、中国や朝鮮の影響を受けながら形成された仏教美術が、どのように変化し、そして日本的なものを表現するようになったのかという視点を重視する。日本では、仏教の伝来とともに仏教が伝えられた。以降、飛鳥・白鳳・天平・平安・鎌倉と時代を追って代表的な作品を見ながら、各時代の仏教美術の特徴をとらえていく。通時代的に仏像を概観することで、仏像彫刻の展開と発展の跡を学ぶことにしたい。	
		日本美術史	本講義は、日本の美術の特徴をよくあらわしている代表的な作品をピックアップして、概観することを目標とする。さまざまな時代の多くの種類の美術に触れ、初等中等教育で主に学んできた西洋の美術とは異なる日本の美術を味わい、楽しむ力を育んでいきたい。代表的な日本美術として、仏教美術、天平の美女像、密教や浄土教の美術、絵巻物、水墨画、障壁画、琳派の絵画、浮世絵、日本画等をとりあげたい。これらの鑑賞を通して、日本美術の基本的な特徴を学べるように配慮する。	
		考古学	本授業は、考古学とはどのような学問なのかを示したあと、人類の誕生を含め、日本列島に人が入ってきてから弥生時代までの歴史の流れを、考古学の立場から解説することを目的とする。具体的には、日本列島の旧石器、縄文、弥生の各時代において、現在、話題になっているトピックをとりあげながら講義を進めていく。最終的に、日本の歴史のはじまり、日本人とは何か、日本の文化はどのように形成されていったのか等を考えるきっかけを提供したい。	
	専攻選択必修科目	異文化との出会いＦ（イタリア）	イタリアは、現在最も好まれている観光地のひとつであるが、歴史的に見ると、実はきわめて新しい国家である。本授業は、この不思議な国イタリアの光と影のなかを、時間を越えて旅することによって、この地の魅力と問題をさぐることを目的とする。具体的には、ローマ・フィレンツェ・ヴェネツィア・ミラノに焦点をあて、各地の歴史と文化、生活、世界遺産などを紹介していく。そのあと、魅力的なイタリアの小都市について触れることで、現代イタリアの全体像を浮かび上がらせてみたい。	
		映像人類学	本講義は、世界の民族文化のの多様性を、自然・技術・生活・社会・文化の諸相から、映像を通して明らかにすることを目的とする。民族固有の文化や価値観を深く理解するための映像・音響資料に、標本資料や文献図書資料を加え、「文化の記憶と記録そして継承・保存」とは何かを考えたい。授業をを通して、映像を用いた展示やプレゼンテーションの可能性と限界について検証するとともに、知の共有に係る仮想空間の表現やデジタルネットワークのあり方ついても言及する。	
		考古学Ｉ	本講義は、縄文時代の人々がどのような生活をしていたのか、どのような社会を形成していたのかを講じることで、日本の基層文化の一端を解明していくことを目的とする。具体的には、日常・非日常の両面から、当時の人々の生活を扱う。日常面では、道具・食事・住居など衣食住の全般、非日常面では、土偶、墓、ストーンサークルなど特殊な遺物や遺構について話をしたい。物心両面から縄文文化の全体像がつかめるように授業を進めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	考古学Ⅱ	本講義は、弥生時代がどのような社会であったのか、特に、大陸との関係性を通して全体像を把握することを目的とする。弥生時代は社会構造が大きく変化した時代である。それを、大陸側の資料を含めて紹介しながら解説していきたい。大陸の要素である青銅器や水田稲作が縄文人にどのように受け入れられたのか等、弥生時代が日本史の大きな節目であることを意識させながら、授業を進めていく。	
		日本美術史Ⅰ	本授業は、尊格別に仏像の作例を集め、その形や様式を検討することをねらいとする。図像学的にそれぞれの尊格の意味するところを観察し、それが時代によってどのような様式的変遷を遂げたのかを考えていきたい。具体的には、数ある尊格中、釈迦、阿弥陀、薬師、大日、弥勒等、各種の如来像を中心として扱う。そこでは合わせて、宗教的な儀礼や行事との関係も考察し、現在、仏像がどのように礼拝され、祀られているかも見ていきたい。	
		日本美術史Ⅱ	本授業は、尊格別に仏像の作例を集め、その形や様式を検討することをねらいとする。図像学的にそれぞれの尊格の意味するところを観察し、それが時代によってどのような様式的変遷を遂げたのかを考えていきたい。具体的には、菩薩、明王、天部の各図像について理解した後、歴史的、美術的にそれぞれの尊像の特徴を考察していく。スライドを使って紹介する具体的な作例を検討しながら、なぜその尊像が好まれたか、どんな受け入れられ方をしたか、などを考えてみたい。	
		文化交流史Ⅰ	本講義では、文化交流の立場から、星や星座にまつわる話をする。現在、日本を含め東洋世界で育まれた星座観については、西洋近代天文学に比し、しばしば理解不足がし見受けられる。これらを正し、人類がともに生活の一部としてきた星空の知識について、日本と他地域との関連を中心に理解してもらうことを目標とする。具体的には、星をめぐる文化について、黄道十二星座、宿曜道、十二星座占星術などを中心に話を進める。また、このような天文の知識がどのように日本に伝わったのかを交流の観点から明らかにしてみたい。	
		文化交流史Ⅱ	本講義では、文化交流の立場から、暦にまつわる話をする。現在の私たちは、日本を含めた東洋世界の歴史的な暦に対する知識が不足している。人類がともに生活の一部としてきた時間の知識について、日本と他地域との関連を中心に理解してもらうのが本授業のねらいである。具体的には、暦の科学的体系、命数学的体系について講じ、それらが、日本へ伝わった経緯、さらに、グレゴリオ暦の成立や西洋天文学の流入、江戸時代の改暦などについて話を進めていきたい。	
		民俗学Ⅰ	民俗学は、現代を生きてゆく私たちの「いきざま」を直視し、私たちの価値観、世界観を再考することを目指す学問である。本講義は、民俗学の基本、及びいくつかの事例を学ぶことで、改めて現在の日常生活を見直すことのできる客観的な手法を獲得することを目標に置きたい。具体的には、まず民俗学の考え方を学び、続いて、「境」をテーマに、私たちの日常生活にひそむ空間や時間の意識について議論する。成人式や有名なアニメ等、身近な事例を取り上げることで、理解を促進させていきたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
博物館学芸員養成課程科目	専攻選択必修科目	民俗学Ⅱ	民俗学は、現代を生きてゆく私たちの「いきざま」を直視し、私たちの価値観、世界観を再考することを目指す学問である。本講義は、民俗学の基本、及びいくつかの事例を学ぶことで、改めて現在の日常生活を見直すことのできる客観的な手法を獲得することを目標に置きたい。具体的には、日常生活における神の存在、神々の姿と形など、まず「神」をテーマに日本の神観念について議論する。次に、儀礼を通して、神々との交わりが意味するものを検証していく。お化けや妖怪など身近な話題についても触れてみたい。	